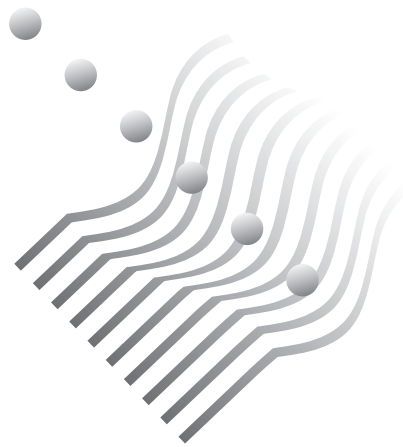


## 第3章

# 学習に関する意識・実態と 学習到達度の関連

- 「学習に関する意識・実態調査」と  
「学習到達度に関する調査」のクロス分析より -



## 分析にあたって

### 1. 「学力」の意味について

今回の分析では、「学習到達度に関する調査」の結果を「学力」とみなし、「学習に関する意識・実態調査」の結果とクロスさせて分析している。第2章で詳述したが、今回の調査が、現行の学習指導要領に示されている前学年までの目標が達成されているかどうかを客観的に把握するとともに、幅広い資質・能力が測定できる内容であると考えためである。

しかし、測定する資質・能力は、筆記形式で短時間に行う1回限りのテストの範囲にならざるを得ないという制約があり、ある程度は限られた範囲の「学力」を測定していることは間違いない。また、実施教科も算数と国語の2教科にとどまる。この点に留意して、調査結果をみる必要があると考える。

今後、さまざまなタイプの問題開発や経年での実施などによって、より包括的な「学力」の把握が必要だが、今回は1つの試みとして調査実施、分析を行った。

### 2. 「学力」の階層化

本章の分析のために、テストによって測定した得点を以下の手続きにより階層化した。

- (1) 算数、国語の得点を偏差値に換算する。
- (2) 偏差値60以上を「上位」、50以上60未満を「中の上位」、40以上50未満を「中の下位」、40未満を「下位」として、それぞれの教科の学力階層を出す。
- (3) 算数と国語の合計の得点を偏差値に換算する。
- (4) 教科の学力階層と同様に、偏差値60以上を「上位」、50以上60未満を「中の上位」、40以上50未満を「中の下位」、40未満を「下位」として、2教科合計の学力階層を出す。

この結果、各教科および2教科合計の学力階層の人数、比率は、表3-1-1のようになった。

## 第1節 小学生の学習行動と学力

### 1. 「学習到達度に関する調査」の得点分布と学力階層

「学習到達度に関する調査」の結果から、子どもの算数、国語、2教科合計の学力を示す「学力階層」変数を作った。「学力階層」変数は、算数と国語のテスト結果から偏差値を求め、偏差値にもとづいて算数の学力階層、国語の学力階層、2教科合計の学力階層の3つを作成した。これら3変数のうち、算数と国語の学力階層の間には強い正の相関があった。性別では、国語と2教科合計で女子のほうが学力階層の「上位」に多い傾向があった。

第3章では、「学習到達度に関する調査」の結果から、算数、国語および2教科合計の偏差値を求め、偏差値に対応して子どもの「学力階層」の変数を作成した。本章では、算数や国語の生の得点分布ではなく、ここで得られた学力階層を用いて、「学力階層」と子どもの学習意識・行動との関連を検討する。

表3-1-1は算数、国語、2教科合計の得点分布と偏差値、そしてそれに対応して作られた「学力階層」変数を示したものである。偏差値60以上を「上位」、50以上60未満を「中の上位」、40以上50未満を「中の下位」、40未満を「下位」とした。算数では、25点満点のうち、23～25点をとった13.9%が「上位」に分類された。そして、17～22点の46.0%が「中の上位」、12～16点の23.0%が「中の下位」、0～11点の17.1%が「下位」にそれぞれ分類された。偏差値で学力階層を分けたので、それぞれの階層ごとの人数は等しくはなく、たとえば、算数では、「中の上位」の割合が多くなっている。同様にして、子どもたちの学力は、国語と2教科合計でも「上位」から「下

位」の4つの学力階層に分類された。

次に、表3-1-2で、算数の学力階層と国語の学力階層の関連をみたところ、算数の学力階層が「上位」の子どもで国語の学力階層が「上位」なのは41.1%、「中の上位」は49.7%、「中の下位」は9.2%であり、国語の学力階層が高いほうに偏って分布している。これに対して、算数の学力階層が「下位」の子どもでは、国語の学力階層の「上位」が0.4%、「中の上位」が9.6%、「中の下位」が34.8%、「下位」が55.2%となっている。ここからは、算数の学力階層と国語の学力階層との間には強い正の相関がみてとれる。

最後に、表3-1-3で、性別に学力階層をみると、算数では性別の差が小さい。しかし、国語では、女子は「上位」が21.7%、「中の上位」が39.9%、これらを合計して61.6%なのに対して、男子は「上位」が11.2%、「中の上位」が34.2%、合計して45.4%であり、女子のほうが男子よりも学力階層が高い。また、2教科合計でも同じように、女子が男子よりも高い学力階層に多い。

表3-1-1 算数、国語、2教科合計の学力と学力階層

		偏差値	実際の得点	人数	%	累積%
算数 25点満点	上位	60以上	23～25	187	13.9	13.9
	中の上位	50以上60未満	17～22	621	46.0	59.9
	中の下位	40以上50未満	12～16	311	23.0	82.9
	下位	40未満	0～11	231	17.1	100.0
	合計	—	—	1350	100.0	—
国語 35点満点	上位	60以上	29～35	218	16.2	16.2
	中の上位	50以上60未満	21～28	497	36.9	53.1
	中の下位	40以上50未満	14～21	416	30.9	84.0
	下位	40未満	0～13	216	16.0	100.0
	合計	—	—	1347	100.0	—
2教科合計 60点満点	上位	60以上	50～60	227	16.9	16.9
	中の上位	50以上60未満	39～49	515	38.4	55.4
	中の下位	40以上50未満	27～38	371	27.7	83.1
	下位	40未満	0～26	227	16.9	100.0
	合計	—	—	1340	100.0	—

表3-1-2 国語の学力階層（算数の学力階層別）

		算数の学力階層			
		上位 (185)	中の上位 (617)	中の下位 (308)	下位 (230)
国語の 学力 階層	上位(218)	41.1	20.9	3.9	0.4
	中の上位(496)	49.7	48.6	26.6	9.6
	中の下位(415)	9.2	26.6	50.0	34.8
	下位(211)	0.0	3.9	19.5	55.2

注) ( )内はサンプル数。

表3-1-3 学力階層（性別）

	算 数		国 語		2教科合計	
	男子 (703)	女子 (645)	男子 (704)	女子 (641)	男子 (699)	女子 (639)
上位	14.1	13.6	11.2	21.7	13.7	20.5
中の上位	44.5	47.6	34.2	39.9	37.5	39.6
中の下位	22.6	23.6	33.0	28.5	26.9	28.5
下位	18.8	15.2	21.6	9.8	21.9	11.4

注) ( )内はサンプル数。

## 2. 学校での学習の様子と学力

### ①好きな教科・嫌いな教科と学力

算数が好きな子どもは算数の学力が高く、国語の好きな子どもは国語の学力が高い傾向がある。しかしながら、興味深いのは国語、社会、理科の教科を好きでも算数の学力は高くなり、むしろ、それらの教科を「好き」と回答している子どもは、算数の学力が低い傾向がみられることである。同じように、社会、理科を「好き」と回答している子どもは、国語の学力階層で「下位」の割合が高くなる傾向がみられる。



あなたは、次の教科や学習の時間の勉強がどのくらい好きですか。

「好きこそもの上手なれ」という言葉があるが、図3-1-1は、まさに、教科の好き嫌いとう学力階層に相関があることを示している。

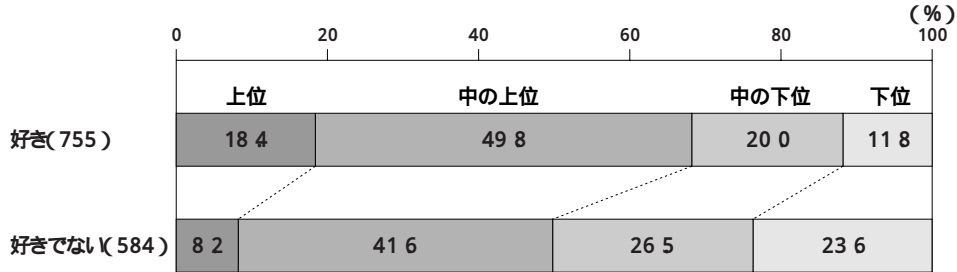
算数が好きな子どもは、18.4%が「上位」、49.8%が「中の上位」、合わせて約7割が偏差値が50以上であり、20.0%が「中の下位」、11.8%が「下位」で、合わせて約3割が偏差値50より低くなっている。これに対して、算数が好きでない子どもだと、「上位」と「中の上位」を合わせて49.8%にとどまっていた、残りの約5割が偏差値が50より低くなっている。算数を好きな子どもは、算数が“できる”ということがわかる(図3-1-1①)。

国語でも、国語が好きな子どもは、「上位」と「中の上位」を合わせた偏差値50以上に約6割が、「中の下位」と「下位」を合わせた偏差値50未満に約4割がいる。これに対して国語を好きでない子どもの場合、「上位」と「中の上位」を合わせた偏差値50以上に5割弱が、「中の下位」と「下位」を合わせた偏差値50未満に5割強がいるという結果になっている。算数ほど相関は明確ではないが、国語を好きな子どもほど国語の学力階層が高い

(図3-1-1②)。

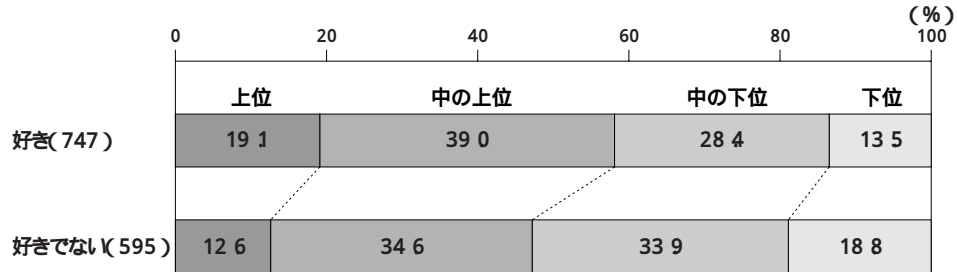
続いて、表3-1-4は国語、社会、算数、理科、総合的な学習の時間のそれぞれについて、好きかどうかによって算数と国語の学力階層がどう違うのかをみたものである。理科が好きだと算数の学力が高いのではないが、社会が好きだと国語の学力が高いのではないかなどと予想されたが、結果は、表にあるように各教科を好きか好きでないかは学力階層と顕著な相関を示さない。算数の分布から見ると、算数が好きな子どもが算数の学力が高いことはすでにみた通りである。しかし、この表で興味深いことは、国語、社会、理科の3教科、特に社会では、その教科を好きな子どもは好きでない子どもよりも算数の学力階層で「下位」の割合が高いことである。算数以外の教科を好きだと算数の学力は高くないどころか、むしろ下位層が多くなってしまっているのである。同じ表で、国語の学力階層については、国語や算数を好きな子どもは国語の上位層が増えるが、社会と理科を好きな子どもは算数のときと同じように下位層が増えるという傾向がみられる。

図3-1-1 算数の学力階層（算数の好き嫌い別）



注1)「好き」は算数について「とても好き」「まあ好き」と回答した児童。「好きでない」は「どちらでもない」「まあ嫌い」「とても嫌い」と回答した児童。  
 注2) ( )内はサンプル数。

図3-1-1 国語の学力階層（国語の好き嫌い別）



注1)「好き」は国語について「とても好き」「まあ好き」と回答した児童。「好きでない」は「どちらでもない」「まあ嫌い」「とても嫌い」と回答した児童。  
 注2) ( )内はサンプル数。

表3-1-4 算数と国語の学力階層（各教科の好き嫌い別）

		国語		社会		算数		理科		総合的な学習の時間	
		好き (750)	好きでない (595)	好き (696)	好きでない (645)	好き (755)	好きでない (584)	好き (950)	好きでない (382)	好き (815)	好きでない (431)
算数	上位	15.2	12.3	14.9	12.9	18.4	8.2	14.2	13.1	14.7	13.7
	中の上位	44.8	47.7	41.7	50.7	49.8	41.6	45.2	49.0	46.9	47.3
	中の下位	21.5	24.7	22.0	23.9	20.0	26.5	22.0	25.4	22.8	21.1
	下位	18.5	15.3	21.4	12.6	11.8	23.6	18.6	12.6	15.6	17.9
		国語		社会		算数		理科		総合的な学習の時間	
		好き (747)	好きでない (595)	好き (692)	好きでない (646)	好き (749)	好きでない (587)	好き (942)	好きでない (387)	好き (810)	好きでない (430)
国語	上位	19.1	12.6	17.8	14.6	18.7	13.3	15.1	19.4	15.8	18.1
	中の上位	39.0	34.6	35.3	38.9	37.4	36.6	36.7	37.5	38.6	37.4
	中の下位	28.4	33.9	29.5	32.2	29.8	32.2	30.9	30.7	30.9	28.8
	下位	13.5	18.8	17.5	14.4	14.2	17.9	17.3	12.4	14.7	15.6

注1)「好き」は各教科について「とても好き」「まあ好き」と回答した児童。「好きでない」は「どちらでもない」「まあ嫌い」「とても嫌い」と回答した児童。  
 注2) ( )内はサンプル数。

## ②授業の理解度と学力

算数の学力階層の違いによって算数の授業の理解度は大きく異なり、同様に、国語の学力階層の違いによって国語の授業の理解度は大きく異なる。それだけでなく、算数や国語の学力が高いほど、他の非実技系教科（国語、社会、算数、理科）の授業の理解度も高くなる。このことは、算数や国語が非実技系教科の学習の基礎教料的な役割を果たしている可能性を示唆している。



学校の授業をどのくらい理解していますか(わかっていますか)。

図3-1-2①をみると、算数の学力階層が「上位」の子どもの場合、87.1%が算数の授業を理解している（「ほとんどわかっている」「だいたいわかっている」と回答している）のに対して、「中の上位」では77.7%、「中の下位」では61.1%、「下位」では43.7%しか理解していない。「上位」と「下位」の差は43.4ポイントにも及んでおり、算数の学力階層ごとの算数の理解度の差は非常に大きいと言える。しかしそれだけでなく、算数の学力が高いほど、国語、社会、理科の授業の理解度も高くなることがわかった。国語を理解している割合をみると、算数の学力階層が「上位」の子どもの場合、90.4%が「わかっている（ほとんど+だいたい）」と回答しているのに対して、「下位」では57.1%がそう答えているにすぎない。さらに、社会を理解している割合でも、算数の学力階層「上位」の77.0%に対して「下位」では53.2%であり、20ポイント強の差になっている。理科を理解している割合でも算数の学力階層「上位」の85.5%に対して「下位」では70.6%しか「わかっている」と回答していない。算数は、国語や社会や理科の学習を進める上での基礎教料的な役割を果たしている可能性を示唆している。

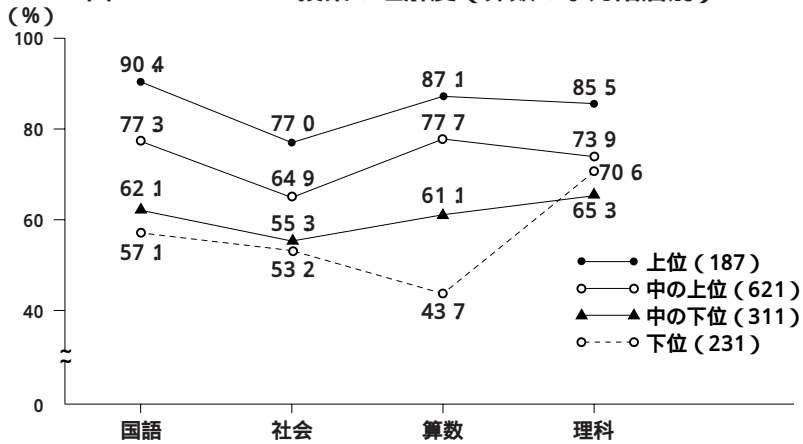
次に、図3-1-2②で、国語の学力階層別に各教科の授業の理解度をみると、国語では「上位」の92.2%が「わかっている」と回

答しているのに対して、「中の上位」では82.1%、「中の下位」では63.0%、そして「下位」では45.8%しかそう回答していない。「上位」と「下位」の差は46.4ポイントであり、算数のときと同様、国語の学力階層ごとの国語の理解度の差も非常に大きいと言える。

また、これも算数のときと同様に、国語の学力が高いほど、社会、算数、理科の授業の理解度が高くなっている。「上位」と「下位」で理解している割合の差に着目すると、社会と算数ではおよそ35ポイント、理科でもおよそ20ポイントの違いになっている。国語は算数の場合以上に、社会や算数、理科の学習を進める上での基礎教料的な役割を果たしている可能性を示唆している。

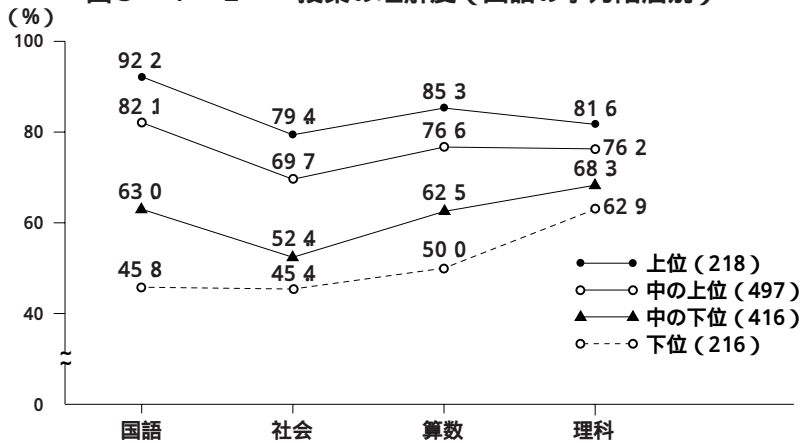
最後に、図3-1-2③で、2教科合計の学力階層別にみると、「上位」の子どもは各教科とも8~9割が「わかっている」と回答しているのに対して、「下位」では5割前後から最高でも理科の66.6%であった。そして、「上位」と「下位」の差に着目すると、国語、社会、算数で40ポイント前後と大きな差を示し、理科でもおよそ20ポイントの差を示している。前述のように、算数や国語は他の教科の学習のための基礎教料的な役割を果たしている可能性が高いが、算数と国語を合わせた変数である2教科合計の学力は、国語、算数、理科、社会の非実技系教科の授業の理解度と非常に強い相関を示している。

図3-1-2 授業の理解度（算数の学力階層別）



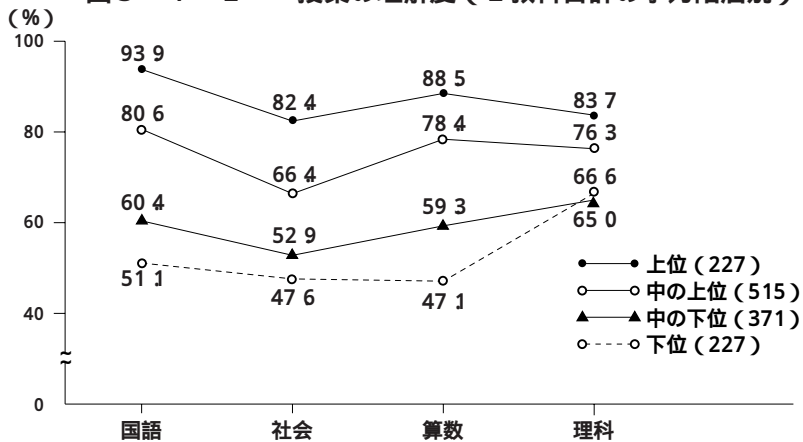
注1) 数値は「ほとんどわかっている」と「だいたいわかっている」の合計。  
 注2) ( )内はサンプル数。

図3-1-2 授業の理解度（国語の学力階層別）



注1) 数値は「ほとんどわかっている」と「だいたいわかっている」の合計。  
 注2) ( )内はサンプル数。

図3-1-2 授業の理解度（2教科合計の学力階層別）



注1) 数値は「ほとんどわかっている」と「だいたいわかっている」の合計。  
 注2) ( )内はサンプル数。

### ③がんばって勉強したい教科と学力

学力が低い子どもは学力の向上をあきらめて、勉強をがんばらなくなるという見方がある。しかし、第3回調査の結果では、むしろ、算数、国語、2教科合計の学力が低い子どものほうが高い子どもよりも、国語や算数をがんばって勉強したいと思っている。

Q

あなたは、これから学校で、どんな教科や学習の時間をがんばって勉強したいと思いますか。特にがんばりたいと思うものを3つまで選んでください。

本調査では、小学校の各教科に総合的な学習の時間を加えた9つの教科や学習の時間の中から、「がんばって勉強したい教科」を3つ選んでもらっている。表3-1-5は、算数、国語、2教科合計の各学力階層ごとに、子どもがどの教科や学習の時間をがんばって勉強したいと思っているかを示している（この表では、非実技系の4教科と総合的な学習の時間をとりだして示している）。

表3-1-5で明らかになったのは、学力上位層よりも下位層のほうがその教科をがんばりたいと思うということである。

まず、算数の学力階層からみると、「上位」が「下位」よりも顕著に多いのは総合的な学習の時間のみで、「上位」29.9%に対して「下位」では16.0%にとどまる。しかしながら、

国語に関しては「上位」24.6%に対して「中の上位」が31.9%、「中の下位」が37.0%、「下位」が34.2%と下位層の子どものほうががんばる気持ちを持っている。また、算数に関しても「上位」45.5%に対して「下位」が57.1%になっている。一般に、学力が低いとあきらめてがんばらなくなるという危惧があるが、今回の調査結果では、算数の学力が低い子どものほうが、むしろ、国語や算数をがんばって勉強したいと思っている。ただし、理科と社会をがんばって勉強したいという割合については、算数の学力階層別に顕著な差はなかった。

そして、同じ表で、同様なことが国語の学力階層や2教科合計の学力階層についても読み取ることができた。

表3-1-5 がんばって勉強したい教科（学力階層別）

（％）

	算 数				国 語				2教科合計			
	上位 (187)	中の上位 (621)	中の下位 (311)	下位 (231)	上位 (218)	中の上位 (497)	中の下位 (416)	下位 (216)	上位 (227)	中の上位 (515)	中の下位 (371)	下位 (227)
国語	24.6	31.9	37.0	34.2	24.8	29.6	36.3	38.9	22.9	32.2	36.1	35.7
社会	33.2	36.2	30.2	29.0	33.0	32.8	36.5	27.8	33.5	36.1	33.2	26.0
算数	45.5	48.3	52.1	57.1	47.7	49.3	52.2	52.8	40.1	51.3	53.9	53.7
理科	26.2	25.6	24.8	24.2	22.0	26.6	25.7	23.6	21.1	28.9	22.6	25.1
総合的な学習の時間	29.9	22.9	20.6	16.0	28.0	25.2	19.2	14.4	29.5	24.3	19.4	14.5

注1) 9教科中から3つまでを選択。 注2) 下線は10%以上差があるもの(最大値と最小値)。 注3) ( )内はサンプル数。

## ④授業の受け方と学力

授業中に逸脱的行動を行わない子どもは、算数、国語、2教科合計ともに学力が高い。また、肯定的な授業態度も高い学力と結びついている。しかし、軽度のおしゃべりや必要以上にていねいにノートをとることは学力階層に与える効果を読み取ることはできない。テストに関連しては、くやしいと思う気持ちや間違えた問題をやり直すことが高い学力に帰結している。



あなたの授業中の様子についてお聞きします。

学力を高めるためには、どのような授業態度が効果的なのだろうか。表3-1-6①～③は、授業中の様子ごとに学力階層の分布をみたものである。「上位」と「中の上位」、つまり偏差値50以上の階層に着目して、表3-1-6①で算数の学力への影響からみてみよう。

まず、否定的な授業中の態度については、予想通りの結果が得られた。「授業時間になっても教室に入らない」「授業中、勝手に席を離れる」「先生に注意されても友だちとおしゃべりを続ける」など重度の逸脱行動についても、さらには「授業中にいねむりする」「マンガをかいたり、文房具で遊ぶ」「ぼうつと他のことを考えている」などの軽度の離脱的逸脱行動についても、授業中に逸脱的行動を行わない子ども（「あまりない」「ほとんどない」と回答した子ども）は、そのような行動を行う子ども（「よくある」「時々ある」と回答した子ども）よりも学力が高かった。

また、興味深いのは「近くの人とおしゃべりする」に「ある」と回答した子どもは、偏差値50以上の2つの階層に58.8%いるが、「ない」と答えた子どもでも62.1%であり、その差は小さい。この程度の軽いおしゃべりであれば、学力に対してあまり影響はない。さらに、「授業中に、他の科目や塾の勉強をする」では、「ある」が35.7%なのに対して「ない」が61.3%と25.6ポイントもの大きな

差になっている。学力を高めるためには「内職」をするよりは、やはり、今受けている授業を大事にすることが重要なのである。

次に、肯定的な授業態度に関して、「ある」と「ない」を偏差値50以上（「上位」＋「中の上位」）で比べてみると、「黒板に書かれたことを、きちんとノートに書く」で13.2ポイント、「友だちの意見や発表をしっかりと聞く」で17.2ポイント、「自分の考えや意見を発表する」で19.1ポイントとなっている。これら肯定的な授業態度が学力を高める効果を果たしていると言える。ただし、「黒板に書かれていなくても、先生の話で大切なことはノートに書く」では「ある」が58.1%、「ない」が61.9%でその差は3.8ポイントしかない。そこまでていねいにノートをとらなくてもよいということだろうか。

テストに関連した質問について、同様に偏差値50以上の割合の差をみると、まず、「本当は解ける問題を不注意で間違えるとくやしいと思う」が「ある」で63.1%、「ない」で47.4%、次に「テストで間違えるとくやしいと思う」では「ある」で62.5%、「ない」で51.9%、最後に「テストで間違えた問題をやり直す」でも「ある」で63.5%、「ない」で46.5%となっている。くやしいと思う気持ちや間違えた問題をやり直すことが高い学力に帰結している。なお、「授業でわからないことは、あとで先生に質問する」は肯定的な学

習行動であるが、「ある」で52.7%なのに対して「ない」で63.3%となっており、質問する子どものほうが学力が低い。これは、わが国の小学校ではわからない子どもがあきらめるのではなく、わからないからこそ質問するという、当たり前のことが行われている結果

とみてよいのではないだろうか。

表3-1-6②で、算数の学力階層の場合と同じ傾向が国語の学力階層の場合にもみとれる。そして、算数と国語の学力階層で同様な傾向が現れているので、2教科合計についても、表3-1-6③で同じ傾向が読み取れる。

表3-1-6① 算数の学力階層（授業の受け方別）

(%)

		上位	中の上位	上位+ 中の上位	中の下位	下位
授業でわからないことは、あとで先生に質問する	ある(432) ない(909)	11.3 15.0	41.4 48.3	52.7 63.3	25.9 21.7	21.3 15.1
授業の内容が難しいと思う	ある(697) ない(646)	8.2 20.1	42.8 49.5	51.0 69.6	25.8 19.8	23.2 10.5
授業の内容が簡単すぎると思う	ある(561) ない(776)	19.6 9.9	49.2 43.7	68.8 53.6	18.4 26.3	12.8 20.1
授業中にいねむりをする	ある(48) ない(1291)	6.3 14.2	35.4 46.6	41.7 60.8	25.0 22.9	33.3 16.3
マンガをかいいたり、文房具で遊ぶ	ある(327) ない(1009)	11.0 15.0	41.6 47.3	52.6 62.3	25.1 22.5	22.3 15.3
近くの人とおしゃべりをする	ある(859) ない(480)	13.2 15.4	45.6 46.7	58.8 62.1	24.2 21.0	17.0 16.9
授業中に、他の科目や塾の勉強をする	ある(73) ない(1262)	11.0 14.0	24.7 47.3	35.7 61.3	26.0 23.1	38.4 15.6
ぼうっと他のことを考えている	ある(486) ない(844)	11.1 15.5	41.4 49.1	52.5 64.6	25.5 21.3	22.0 14.1
黒板に書かれたことを、きちんとノートに書く	ある(1207) ない(133)	14.5 9.0	46.8 39.1	61.3 48.1	23.1 21.8	15.6 30.1
授業時間になっても教室に入らない	ある(142) ない(1191)	10.6 14.4	40.8 46.9	51.4 61.3	25.4 22.7	23.2 16.0
授業中、勝手に席を離れる	ある(97) ない(1234)	5.2 14.6	33.0 47.2	38.2 61.8	30.9 22.4	30.9 15.8
先生に注意されても友だちとおしゃべりを続ける	ある(138) ない(1198)	9.4 14.5	42.0 46.6	51.4 61.1	29.0 22.1	19.6 16.8
黒板に書かれていなくても、先生の話で大切なことはノートに書く	ある(630) ない(707)	13.7 14.1	44.4 47.8	58.1 61.9	23.7 22.3	18.3 15.7
本当は解ける問題を不注意で間違える とくやしいと思う	ある(1076) ない(268)	15.1 9.0	48.0 38.4	63.1 47.4	22.4 25.7	14.5 26.9
テストで間違えるとくやしいと思う	ある(1044) ない(293)	14.9 10.6	47.6 41.3	62.5 51.9	21.7 26.6	15.7 21.5
テストで間違えた問題をやり直す	ある(1055) ない(284)	14.7 11.3	48.8 35.2	63.5 46.5	21.6 28.5	14.9 25.0
友だちの意見や発表をしっかりと聞く	ある(1189) ない(154)	14.6 8.4	47.4 36.4	62.0 44.8	22.6 25.3	15.4 29.9
自分の考えや意見を発表する	ある(751) ない(595)	17.0 9.9	51.3 39.3	68.3 49.2	19.4 27.6	12.3 23.2

注1)「ある」は「よくある」「時々ある」と回答した児童。「ない」は「あまりない」「ほとんどない」と回答した児童。

注2)数値部分のアミかけは「上位」と「中の上位」の合計で「ある」と「ない」の差が10%以上のもの。

注3)( )内はサンプル数。

表3-1-6② 国語の学力階層（授業の受け方別）

(%)

		上位	中の上位	上位+ 中の上位	中の下位	下位
授業でわからないことは、あとで先生に質問する	ある(433) ない(905)	12.7 17.8	33.7 38.3	46.4 56.1	34.2 29.4	19.4 14.5
授業の内容が難しいと思う	ある(696) ない(644)	11.4 21.6	31.9 42.5	43.3 64.1	36.6 24.4	20.1 11.5
授業の内容が簡単すぎると思う	ある(560) ない(774)	20.4 13.2	38.8 35.9	59.2 49.1	26.4 33.9	14.5 17.1
授業中にいねむりをする	ある(48) ない(1287)	2.1 16.9	29.2 37.4	31.3 54.3	31.3 30.8	37.5 15.0
マンガをかいたり、文房具で遊ぶ	ある(329) ない(1004)	10.6 18.0	31.9 38.7	42.5 56.7	35.9 29.3	21.6 13.9
近くの人とおしゃべりをする	ある(856) ない(480)	15.4 17.5	37.5 36.5	52.9 54.0	30.0 32.3	17.1 13.8
授業中に、他の科目や塾の勉強をする	ある(73) ない(1259)	9.6 16.8	19.2 37.9	28.8 54.7	35.6 30.7	35.6 14.7
ぼうっと他のことを考えている	ある(484) ない(843)	12.2 18.5	34.3 38.8	46.5 57.3	32.6 29.8	20.9 12.9
黒板に書かれたことを、きちんとノートに書く	ある(1204) ない(133)	16.7 12.0	38.1 26.3	54.8 38.3	30.6 32.3	14.5 29.3
授業時間になっても教室に入らない	ある(142) ない(1188)	10.6 17.0	26.8 38.6	37.4 55.6	35.9 30.1	26.8 14.3
授業中、勝手に席を離れる	ある(100) ない(1228)	5.0 17.3	20.0 38.4	25.0 55.7	37.0 30.4	38.0 14.0
先生に注意されても友だちとおしゃべりを続ける	ある(139) ない(1194)	10.1 17.1	32.4 37.6	42.5 54.7	33.1 30.6	24.5 14.7
黒板に書かれていなくても、先生の話で大切なことはノートに書く	ある(629) ない(705)	17.3 15.3	38.8 35.5	56.1 50.8	30.0 31.2	13.8 18.0
本当は解ける問題を不注意で間違える とくやしいと思う	ある(1071) ない(270)	17.3 12.2	39.4 27.8	56.7 40.0	30.2 33.3	13.2 26.7
テストで間違えるとくやしいと思う	ある(1036) ない(298)	17.0 13.4	38.8 30.9	55.8 44.3	29.9 33.6	14.3 22.1
テストで間違えた問題をやり直す	ある(1049) ない(287)	17.5 11.1	39.4 27.9	56.9 39.0	29.5 36.2	13.6 24.7
友だちの意見や発表をしっかりと聞く	ある(1185) ない(155)	17.6 5.8	38.6 24.5	56.2 30.3	30.0 37.4	13.8 32.3
自分の考えや意見を発表する	ある(752) ない(591)	19.1 12.5	41.4 31.5	60.5 44.0	28.2 34.2	11.3 21.8

注1)「ある」は「よくある」「時々ある」と回答した児童。「ない」は「あまりない」「ほとんどない」と回答した児童。

注2)数値部分のアミかけは「上位」と「中の上位」の合計で「ある」と「ない」の差が10%以上のもの。

注3) ( )内はサンプル数。

表3 - 1 - 6③ 2教科合計の学力階層（授業の受け方別）

（％）

		上位	中の上位	上位+ 中の上位	中の下位	下位
授業でわからないことは、あとで先生に質問する	ある（430） ない（901）	15.3 17.5	33.7 40.7	49.0 58.2	29.5 26.9	21.4 14.9
授業の内容が難しいと思う	ある（690） ない（643）	10.6 24.0	32.3 44.9	42.9 68.9	35.7 19.0	21.4 12.1
授業の内容が簡単すぎると思う	ある（558） ない（769）	22.2 13.1	41.4 36.5	63.6 49.6	22.2 31.3	14.2 19.0
授業中にいねむりをする	ある（47） ない（1282）	2.1 17.6	31.9 38.9	34.0 56.5	21.3 27.7	44.7 15.8
マンガをかいたり、文房具で遊ぶ	ある（325） ない（1001）	11.7 18.9	32.6 40.2	44.3 59.1	32.6 26.2	23.1 14.8
近くの人とおしゃべりをする	ある（852） ない（477）	16.5 17.6	37.7 40.3	54.2 57.9	28.4 26.2	17.4 15.9
授業中に、他の科目や塾の勉強をする	ある（72） ない（1253）	11.1 17.5	18.1 39.5	29.2 57.0	26.4 27.9	44.4 15.2
ぼうっと他のことを考えている	ある（481） ない（839）	13.5 19.0	33.3 41.8	46.8 60.8	31.0 25.6	22.2 13.6
黒板に書かれたことを、きちんとノートに書く	ある（1199） ない（131）	17.6 12.2	39.4 28.2	57.0 40.4	27.5 29.0	15.4 30.5
授業時間になっても教室に入らない	ある（141） ない（1182）	11.3 17.9	27.7 40.0	39.0 57.9	34.0 26.8	27.0 15.3
授業中、勝手に席を離れる	ある（96） ない（1225）	3.1 18.2	20.8 39.9	23.9 58.1	39.6 26.7	36.5 15.2
先生に注意されても友だちとおしゃべりを続ける	ある（136） ない（1190）	8.8 18.1	36.8 38.8	45.6 56.9	30.1 27.1	24.3 16.0
黒板に書かれていなくても、先生の話で大切なことはノートに書く	ある（626） ない（701）	17.3 16.8	39.6 37.8	56.9 54.6	26.5 28.4	16.6 17.0
本当は解ける問題を不注意で間違える とくやしいと思う	ある（1068） ない（266）	18.6 10.5	40.3 31.6	58.9 42.1	27.5 28.2	13.6 29.7
テストで間違えるとくやしいと思う	ある（1035） ない（292）	18.0 14.0	40.1 32.5	58.1 46.5	27.2 29.1	14.7 24.3
テストで間違えた問題をやり直す	ある（1046） ない（283）	19.2 8.8	40.6 30.4	59.8 39.2	25.8 34.3	14.3 26.5
友だちの意見や発表をしっかりと聞く	ある（1180） ない（153）	18.3 7.2	40.1 26.1	58.4 33.3	27.1 32.0	14.5 34.6
自分の考えや意見を発表する	ある（748） ない（588）	21.5 11.2	41.7 34.4	63.2 45.6	25.7 30.1	11.1 24.3

注1)「ある」は「よくある」「時々ある」と回答した児童。「ない」は「あまりない」「ほとんどない」と回答した児童。

注2)数値部分のアミかけは「上位」と「中の上位」の合計で「ある」と「ない」の差が10%以上のもの。

注3)（ ）内はサンプル数。

## ⑤好きな学校の勉強方法と学力

「パソコンを使ってする勉強」は上位層から下位層までがまんべんなく好きな勉強方法であり、学力階層による差が小さい。それ以外の勉強方法についてはいずれも、学力階層によって「好き」と回答する割合の差が非常に大きい。



あなたは、次にあげる学校の勉強方法は、どのくらい好きですか。

学力階層別に学校での好きな勉強方法をみたものが、表3-1-7である。この表を見ると、「パソコンを使ってする勉強」は、算数、国語、2教科合計ともに上位層から下位層までがまんべんなく好きな勉強方法であり、学力階層による差が小さい。学力階層別で好き嫌いの差が小さいという観点からは、学校でのパソコン利用は大いに進められるべきである。

これ以外の勉強方法では、学力階層によって好きな割合の差が非常に大きい。「苦手度が大きい(=好きな割合が少ない)勉強方法」という視点でみると、まず、算数の学力階層が「下位」の子どもは、「ドリルやプリントを使ってする授業(52.8%:「とても好き」「好き」と回答した割合。以下、同様)」が苦手である。次に、国語の学力階層が「下位」の子どもは、「考えたり調べたりしたことをいろいろ工夫して発表すること(42.1%)」「個人(自分一人)で何かを考えたり調べたりする授業(49.5%)」が苦手である。下位層の子どもたちには、これらの勉強方法は避けてあげるか、あるいは、好きになれるように方法を改善するか、もしくは実施時に何らかのサポートが必要である。

また、学力上位層が(上位層であるにもか

かわらず)比較的苦手である勉強方法についてみてみよう。まず、算数の学力階層が「上位」の子どもは、「個人(自分一人)で何かを考えたり調べたりする授業(61.0%)」「考えたり調べたりしたことをいろいろ工夫して発表すること(67.4%)」「いろいろな人に聞きに行つてする授業や調査(70.0%)」で「好き」と回答する割合が、相対的に小さい。さらに、国語の学力階層が「上位」の子どもは、算数の場合と同じ「個人で何かを考えたり調べたりする授業(59.1%)」「考えたり調べたりしたことをいろいろ工夫して発表すること(63.3%)」「いろいろな人に聞きに行つてする授業や調査(71.1%)」に加えて、「ドリルやプリントを使ってする授業(71.1%)」がやや苦手なようである。

最後に、「座学」の典型とされる「先生が黒板を使いながら教えてくれる授業」は、算数の学力階層でも国語の学力階層でも、下位の子どもでおよそ8割、上位の子どもでおよそ9割が「好き」と答えている。近年の風潮では、ともすると生きる力や体験的要素を強調するあまり座学を否定しがちであるが、座学は子どもたちによって好かれている勉強方法の1つであることを忘れてはならない。

表3-1-7 好きな学校の勉強方法（学力階層別）

（％）

	算 数				国 語				2教科合計			
	上位 (187)	中の上位 (621)	中の下位 (311)	下位 (231)	上位 (218)	中の上位 (497)	中の下位 (416)	下位 (216)	上位 (227)	中の上位 (515)	中の下位 (371)	下位 (227)
先生が黒板を使いながら教えてくれる授業	<u>88.8</u>	87.6	83.6	<u>77.0</u>	<u>89.5</u>	86.7	85.6	<u>76.4</u>	<u>89.9</u>	87.8	85.4	<u>74.5</u>
個人（自分一人）で何かを考えたり調べたりする授業	<u>61.0</u>	53.0	50.5	<u>49.8</u>	<u>59.1</u>	54.1	<u>49.1</u>	49.5	<u>62.6</u>	52.2	<u>49.3</u>	50.2
グループで何かを考えたり調べたりする授業	<u>91.4</u>	87.3	85.2	<u>77.5</u>	<u>91.3</u>	86.7	85.8	<u>76.9</u>	<u>90.7</u>	89.1	81.9	<u>78.4</u>
ドリルやプリントを使っている授業	<u>77.0</u>	66.5	67.9	<u>52.8</u>	<u>71.1</u>	68.6	63.7	<u>58.8</u>	<u>74.0</u>	68.0	65.0	<u>55.5</u>
自分たちでテーマや調べ方を決めてする授業	<u>77.0</u>	74.1	71.4	<u>64.1</u>	<u>80.3</u>	74.8	71.7	<u>57.9</u>	<u>78.8</u>	75.5	70.1	<u>60.8</u>
パソコンを使ってする勉強	93.6	93.1	88.7	87.8	94.1	91.5	90.9	87.9	93.4	92.7	90.3	87.2
学校外のいろいろな場所に行っている授業や調査	90.4	<u>90.5</u>	87.7	<u>79.7</u>	88.5	<u>90.6</u>	88.2	<u>79.6</u>	88.9	<u>91.2</u>	87.6	<u>79.7</u>
いろいろな人に聞きに行っている授業や調査	70.0	<u>72.8</u>	68.8	<u>62.7</u>	71.1	<u>74.6</u>	68.3	<u>57.8</u>	69.6	<u>75.0</u>	68.2	<u>59.9</u>
友だちと話し合いながら進めていく授業	<u>86.1</u>	84.5	83.2	<u>74.9</u>	<u>86.7</u>	84.3	83.4	<u>73.7</u>	<u>88.1</u>	85.8	81.4	<u>73.1</u>
考えたり調べたりしたことをいろいろ工夫して発表すること	<u>67.4</u>	59.5	52.4	<u>45.5</u>	<u>63.3</u>	62.7	52.6	<u>42.1</u>	<u>64.8</u>	62.9	50.7	<u>43.6</u>

注1) 数値は「とても好き」と「好き」の合計。

注2) 下線は10%以上差があるもの（最大値と最小値）。

注3) ( )内はサンプル数。

### 3. 家での学習の様子と学力

#### ① 家での学習時間と学力

算数の学力階層が「上位」の子どもほど勉強時間が長くなり、「下位」の子どもほどテレビ視聴の時間が長くなる。国語と2教科合計の学力階層別にもほぼ同じ傾向が読み取れた。

Q

あなたはふだん（月曜日～金曜日）家に帰ってから何時間くらい勉強しますか。学習塾や家庭教師について勉強する時間も含めてください。

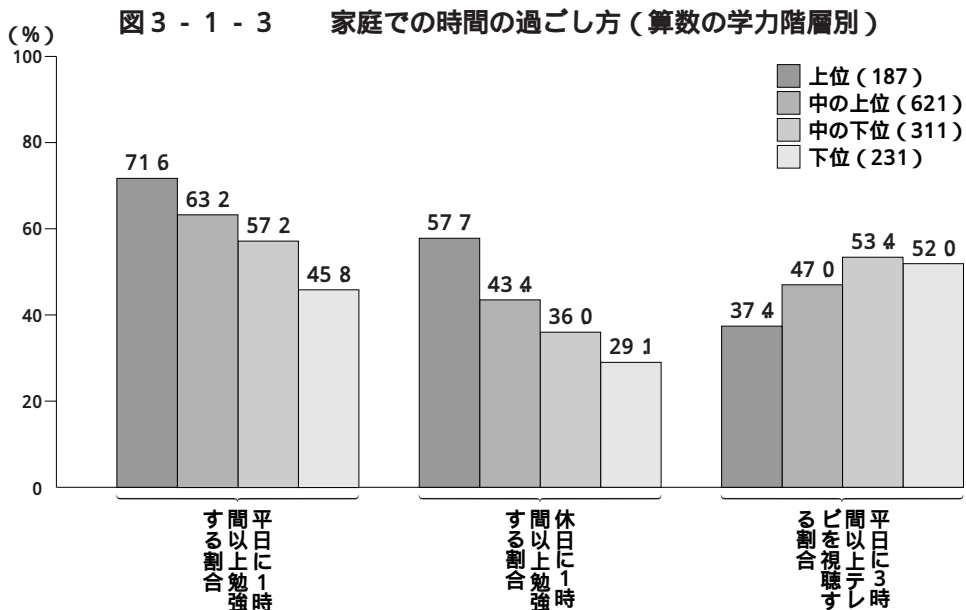
日曜日は、家で何時間くらい勉強しますか。学習塾や家庭教師について勉強する時間も含めてください。

ふだん（月曜日～金曜日）テレビを1日に何時間くらい見ますか。

学力階層別に家庭での過ごし方をみたものが、図3-1-3①～③である。

まず、図3-1-3①で、算数の学力階層別に家庭での過ごし方をみると、「上位」の子どもは「平日に1時間以上勉強する」割合が71.6%と7割を超えているのに対して、「中

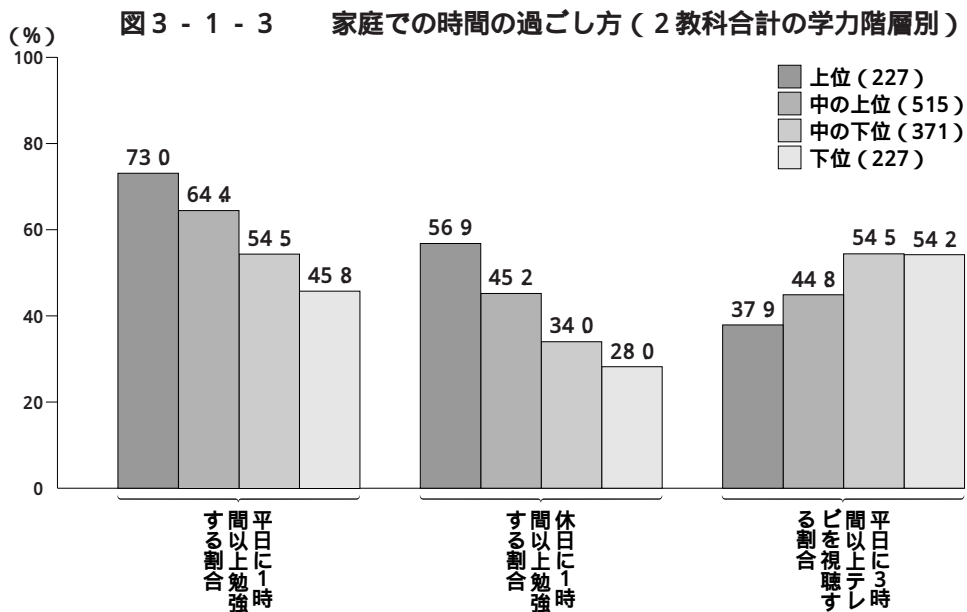
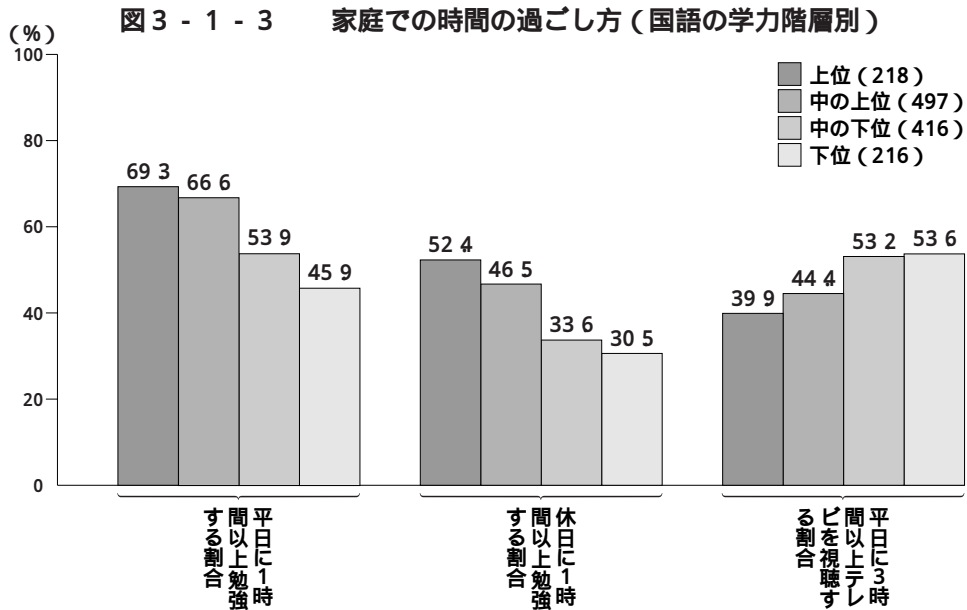
の上位」では63.2%、「中の下位」では57.2%、そして「下位」では45.8%と5割を切っている。また、同じく「休日に1時間以上勉強する」割合も、「上位」の子どもは57.7%とおよそ6割であるのに対して、「中の上位」では43.4%、「中の下位」では36.0%、「下位」



では29.1%とおよそ3割になっている。明らかに学力階層が高いほど勉強時間が長い。反対に、「平日に3時間以上テレビを視聴する」割合は「上位」が37.4%に対して、「中の上位」は47.0%、「中の下位」は53.4%、そして「下位」ではやや減るものの52.0%となっ

ている。算数の学力階層が高いと勉強時間が長くなり、低いとテレビ視聴の時間が長くなる。

なお、図3-1-3②、図3-1-3③で、国語と2教科合計の学力階層別でもほぼ同じ傾向が読み取れる。



注1) 「平日に1時間以上勉強する割合」および「休日に1時間以上勉強する割合」の数値は、「1時間」「1時間30分」「2時間」「2時間30分」「3時間」「3時間30分」「それ以上」の合計。「平日に3時間以上テレビを視聴する割合」の数値は、「3時間」「3時間30分」「それ以上」の合計。

注2) ( )内はサンプル数。

## ②家での学習の様子と学力

家庭での学習方法や態度が学力階層の分布に与える影響をみたところ、けじめや計画性のある子ども、まじめな学習態度の子どもは学力が高いことがわかった。なかでも、宿題をきちんとやることが学力を高める効果は非常に大きい。反対に、中途半端に勉強を終わらせてしまう態度が学力を高めることの障害となっている。ただし、第3回調査からは、がまんして机に向かわせることは学力を高める上であまり効果がないという結果になった。



あなたは家で勉強するとき、次のようなことをしますか。

家庭での学習方法・態度は、子どもの学力に対してどのように影響を与えているのだろうか。表3-1-8は、家庭での学習の様子別に算数、国語、2教科合計の学力階層の分布をみたものである。なお、この表では、第1章でみた4つの因子を特徴づける質問項目ごとに整理して学力階層の分布を表示した。ここでは、偏差値50以上の子どもの割合、すなわち「上位」と「中の上位」を合計した割合をもとに考察する。

最初に、「けじめ・計画性因子」を特徴づけている質問項目では、算数と国語、2教科合計のすべての学力階層で「家族に言われなくても自分から進んで勉強する」か否かで偏差値50以上の割合に差があった。算数では「あてはまる」62.8%対「あてはまらない」49.6%、国語では56.6%対40.2%、2教科合計では59.4%対40.8%と、自分から進んで勉強する子どものほうに学力上位層が多かった。同じく、「何かを覚えるときには、読んで覚えるのではなく書いて覚えるようにしている」でも算数が62.3%対52.1%、国語が56.0%対43.0%、2教科合計が58.6%対44.4%となっており、書いて覚えるほうが学力が高くなる。その他の項目でも、けじめや計画性のある子どものほうが学力が高い傾向がある。

続いて、「まじめ因子」を特徴づけていた質問項目ではほとんどすべてで、まじめな学習態度が学力を高めていることがわかる。な

かでも、「出された宿題をきちんとやっていく」ことは大切で、算数の学力階層で偏差値50以上の割合は、「あてはまる」61.3%に対して「あてはまらない」は33.4%であった。同じく国語では、「あてはまる」の55.0%に対して「あてはまらない」はわずか18.3%であり、2教科合計でも、「あてはまる」の57.4%に対して「あてはまらない」はわずか17.5%であった。宿題をきちんとやることが学力を高める効果は非常に大きいと言える。

「中途半端因子」を特徴づけていた質問項目では、算数、国語、2教科合計の3つすべての学力階層の分布に関して、「『勉強は学校だけですればいい』と思う」や「勉強していて問題の答えがわからないと、途中でやる気がなくなる」と答えた子どもは学力階層の下位に多かった。特に「『勉強は学校だけですればいい』と思う」と「勉強していて問題の答えがわからないと、途中でやる気がなくなる」の2つについては、中途半端に勉強を終わらせてしまう態度が学力を高めることの障害となっているようだ。

最後に「がまん因子」を特徴づけている「がまんして机に向かう」は、算数も国語も2教科合計もまったく学力階層による差を生みだしていない。がまんして机に向かわせることは学力を高める上であまり効果がないようである。

表3 - 1 - 8 算数、国語、2教科合計の学力階層（家での学習の様子別）

(%)

		けじめ・計画性因子															
		計画を立てて勉強する		机に向かったら、すぐに勉強にとりかかる		家族に言われなくても自分から進んで勉強する		何かを覚えるときには、読んで覚えるのではなく、書いて覚える		自分で興味を持ったことを、学校の勉強に関係なく調べる		ラジオやテレビ、CDをつけっ放しで勉強する		授業で習ったことは、その日のうちに復習する		予習をしてから授業を受ける	
		あてはまる	あてはまらない	あてはまる	あてはまらない	あてはまる	あてはまらない	あてはまる	あてはまらない	あてはまる	あてはまらない	あてはまる	あてはまらない	あてはまる	あてはまらない	あてはまる	あてはまらない
算数	上位	(783)	(552)	(899)	(439)	(1073)	(270)	(1059)	(278)	(868)	(465)	(610)	(729)	(673)	(661)	(761)	(581)
	中の上位	14.7	13.0	14.8	12.1	15.4	8.1	14.4	12.2	14.2	13.5	11.6	15.9	14.7	13.0	12.1	16.4
	上位+中の上位	61.7	58.1	62.1	56.1	62.8	49.6	62.3	52.1	61.3	58.0	56.8	62.8	58.2	62.2	57.0	64.2
	中の下位	22.3	23.9	21.9	25.3	22.3	25.6	22.3	25.9	23.8	21.1	25.9	20.6	24.8	21.0	25.2	20.0
	下位	16.0	17.9	16.0	18.7	14.9	24.8	15.5	21.9	14.9	20.9	17.2	16.6	16.9	16.8	17.7	15.8
国語	上位	(779)	(553)	(895)	(440)	(1069)	(271)	(1055)	(279)	(864)	(465)	(609)	(727)	(671)	(660)	(757)	(582)
	中の上位	17.2	15.2	17.9	13.2	17.5	11.4	17.3	12.2	17.9	13.3	12.8	19.3	17.3	15.2	17.7	14.4
	上位+中の上位	55.8	49.6	56.7	46.8	56.6	40.2	56.0	43.0	55.5	49.9	50.6	55.9	55.9	50.8	54.6	51.5
	中の下位	30.4	31.6	29.8	32.5	29.7	35.8	30.3	32.3	30.6	31.4	35.1	27.2	30.4	31.7	28.1	34.5
	下位	13.7	18.8	13.5	20.7	13.8	24.0	13.6	24.7	13.9	18.7	14.3	16.9	13.7	17.6	17.3	13.9
2教科合計	上位	(776)	(549)	(893)	(435)	(1066)	(267)	(1052)	(275)	(861)	(462)	(605)	(724)	(667)	(657)	(754)	(578)
	中の上位	18.0	15.8	18.5	14.0	18.5	11.2	18.3	12.4	18.0	15.6	13.7	19.9	17.5	16.3	17.0	17.1
	上位+中の上位	58.7	51.3	59.5	48.0	59.4	40.8	58.6	44.4	58.5	51.1	52.4	58.7	57.4	54.0	55.2	56.4
	中の下位	26.7	29.0	25.6	31.5	25.8	35.2	26.5	32.0	27.3	27.5	32.1	23.8	27.4	27.9	27.6	27.5
	下位	14.6	19.7	14.9	20.5	14.8	24.0	14.9	23.6	14.2	21.4	15.5	17.5	15.1	18.1	17.2	16.1
算数	上位	(782)	(556)	(1283)	(57)	(1102)	(237)	(432)	(908)	(724)	(610)	(1247)	(86)	(810)	(524)	(723)	(611)
	中の上位	13.6	14.4	14.4	1.8	14.6	10.5	8.6	16.5	10.2	18.4	13.8	14.0	14.6	13.0	14.7	13.3
	上位+中の上位	61.4	58.5	61.3	33.4	61.8	51.9	49.1	65.5	52.6	69.2	60.5	55.9	60.6	59.6	59.4	60.9
	中の下位	23.0	23.0	22.8	29.8	22.6	25.3	28.7	20.3	24.9	20.8	23.0	24.4	23.3	22.5	23.0	23.2
	下位	15.6	18.5	15.9	36.8	15.6	22.8	22.2	14.2	22.5	10.0	16.5	19.8	16.0	17.9	17.7	15.9
国語	上位	(778)	(557)	(1277)	(60)	(1096)	(240)	(432)	(905)	(723)	(607)	(1241)	(89)	(810)	(521)	(720)	(611)
	中の上位	17.6	14.4	16.8	5.0	17.2	11.7	9.3	19.7	11.3	22.4	16.7	11.2	16.3	16.5	14.4	18.3
	上位+中の上位	58.1	46.9	55.0	18.3	56.1	40.5	41.2	59.1	45.3	63.3	53.8	48.3	53.8	53.0	52.6	54.0
	中の下位	28.5	34.3	30.1	48.3	29.8	36.3	36.6	28.2	35.3	25.4	31.1	28.1	32.6	28.0	32.1	29.5
	下位	13.4	18.9	14.9	33.3	14.1	23.3	22.2	12.7	19.4	11.4	15.1	23.6	13.6	19.0	15.3	16.5
2教科合計	上位	(776)	(552)	(1273)	(57)	(1092)	(237)	(429)	(901)	(718)	(606)	(1237)	(86)	(804)	(520)	(718)	(606)
	中の上位	17.9	15.8	17.6	3.5	18.0	12.2	9.3	20.8	12.0	23.3	17.5	10.5	17.5	16.5	15.6	18.8
	上位+中の上位	59.9	50.0	57.4	17.5	58.2	43.8	41.7	62.4	46.5	66.9	56.3	48.9	56.1	55.5	55.0	56.3
	中の下位	25.9	30.1	26.8	49.1	26.9	31.2	35.0	24.2	31.9	22.6	27.6	29.1	28.6	25.8	27.9	27.6
	下位	14.2	19.9	15.8	33.3	14.8	24.9	23.3	13.4	21.6	10.6	16.2	22.1	15.3	18.7	17.1	16.2

注1)「あてはまる」はそれぞれの項目について「あてはまる」「まああてはまる」と回答した児童。「あてはまらない」は「あてはまらない」と回答した児童。

注2)数値部分のamiかけは「上位」と「中の上位」の合計の差が、「あてはまる」と「あてはまらない」の間で10%以上のもの。

注3)( )内はサンプル数。

### ③日常生活の中での「学習」と学力

学力上位層ほど日常生活の中での「学習」を行う傾向がある。しかしながら、「自然や動物・植物の本を読む」「家でペットや動物・植物の世話をする」などの自然や動植物にかかわることがらでは、学力下位層ほどよく行っている。また、国語の学力階層が「上位」の子どもは「下位」の子どもよりも、歴史や文学・物語、新聞のニュースなどに接する機会が多い。



あなたは、ふだん（学校の授業や宿題以外で）次のことをどのくらいしますか。

学力階層別に、子どもたちの日常生活の中の広い意味での「学習」の様子をみてみよう（表3-1-9）。まず、2教科合計からみると、「歴史の本や伝記の本を読む（「上位」50.2%対「下位」35.7%）」「文学・小説・物語・童話などの本を読む（77.6%対52.0%）」「新聞のニュース欄を読む（49.3%対36.1%）」「地域の図書館で本を読んだり借りたりする（61.7%対40.1%）」などとなっていて、学力上位層ほどこうした「学習」をよく行う傾向がある。しかしながら、「自然や動物・植物の本を読む（52.9%対62.1%）」「家でペットや動物・植物の世話をする（59.9%対65.2%）」などの自然や動植物にかかわることがらでは、学力下位層の子どものほうがよく行っている。さらに、「美術館や博物館に行く（30.4%対

30.4%）」「日記をつける（33.9%対34.8%）」では、学力階層による差が小さい。

同じ表で、算数と国語の学力階層別にも、2教科合計の学力階層別とほぼ同じ傾向が読み取れるが、国語の場合、その傾向は非常に顕著なものとなる。「上位」と「下位」の子どもの差に着目してみると、「歴史の本や伝記の本を読む」でおよそ2割、「文学・小説・物語・童話などの本を読む」でおよそ3割、「新聞のニュース欄を読む」でおよそ1割、「地域の図書館で本を読んだり借りたりする」でおよそ3割の差がついている。国語の学力上位層にいる子どもは、下位層の子どもよりも歴史や文学・物語、新聞のニュースなどに接する機会が多い。

表3 - 1 - 9 日常生活の中での「学習」(学力階層別)

(%)

	算 数				国 語				2 教科合計			
	上位 (187)	中の上位 (621)	中の下位 (311)	下位 (231)	上位 (218)	中の上位 (497)	中の下位 (416)	下位 (216)	上位 (227)	中の上位 (515)	中の下位 (371)	下位 (227)
歴史の本や伝記の本を読む	<u>49.7</u>	46.2	42.1	<u>38.5</u>	<u>54.1</u>	46.1	42.8	<u>34.7</u>	<u>50.2</u>	47.9	42.0	<u>35.7</u>
文学・小説・物語・童話などの本を読む	<u>73.3</u>	71.5	69.7	<u>58.9</u>	<u>82.1</u>	70.4	67.6	<u>54.6</u>	<u>77.6</u>	72.4	69.8	<u>52.0</u>
自然や動物・植物の本を読む	<u>50.3</u>	58.5	59.2	<u>62.3</u>	55.9	55.3	60.6	61.1	52.9	57.3	59.8	62.1
新聞のニュース欄を読む	<u>49.8</u>	42.8	42.5	<u>37.2</u>	<u>50.0</u>	43.5	41.5	<u>36.1</u>	<u>49.3</u>	43.7	41.5	<u>36.1</u>
美術館や博物館に行く	26.8	31.9	28.0	27.2	34.9	30.0	26.2	30.0	30.4	31.8	25.4	30.4
家でペットや動物・植物の世話をする	62.5	62.8	68.5	64.6	61.5	62.6	66.8	65.8	59.9	63.7	67.3	65.2
日記をつける	35.3	34.8	36.3	37.6	34.4	36.0	34.4	37.0	33.9	35.2	37.5	34.8
読みたい本を本屋さんで探して買う	70.0	72.8	69.7	70.6	75.7	71.1	71.2	66.7	73.2	72.6	70.9	66.9
地域の図書館で本を読んだり借りたりする	<u>59.4</u>	56.8	54.4	<u>45.9</u>	<u>63.3</u>	58.2	54.3	<u>37.5</u>	<u>61.7</u>	57.1	55.8	<u>40.1</u>

注1) 数値は「よくする」と「時々する」の合計。

注2) 下線は10%以上差があるもの(最大値と最小値)。

注3) ( )内はサンプル数。

## ④ 家庭環境と学力

学力が高い子どもの家庭ほど学習環境に恵まれている。ただし、「ほとんど毎日、家の人は私に『勉強しなさい』と言う」のは、学力下位層の子どもの家庭のほうが多い。学力が高い子どもの保護者は、勉強をするように言うよりは、ふだんから話し合ったり、勉強をみてあげたり、子どもの学業の状況を知るようにしている。



あなたの家のことについてお聞きます。

学力階層ごとの家庭の学習環境にどのような違いがあるのか、表3-1-10を用いてみましょう。

2教科合計の学力階層からみると、全体に学力が高い子どもの家庭ほど学習環境に恵まれている。「上位」と「下位」の差に着目して比較すると、「上位」の子どもの家庭では「下位」の子どもの家庭よりも「家には本(マンガや雑誌以外)がたくさんある」割合がおよそ1割多い(「上位」73.1%対「下位」63.4%)。また、「自分一人の勉強部屋を持っている」割合も1割以上多い(45.8%対33.5%)。さらに、「お父さんやお母さんとよく話をする」割合はおよそ2割多く(91.6%対72.2%)、「この1か月の間に、お父さんやお母さんに勉強をみてもらったことがある」割合も2割以上多い(70.5%対48.5%)。そして、「お母さんは私の成績をよく知っている」(85.0%対63.9%)と「お父さんは私の成績をよく知っている」(60.4%対45.8%)も2割前後多い。さらに、「家の人に博物館や美術館に連れて

いってもらったことがある」割合でも2割以上の差がついている(67.8%対45.4%)。2教科合計の学力が高い子どもの家庭ほど、さまざまな面での学習環境に恵まれているといえる。ただし、「ほとんど毎日、家の人は私に『勉強しなさい』と言う」のは低い学力の子どもの家庭のほうである(37.0%対47.6%)。学力が高い子どもの保護者は、勉強をするように言うよりは、ふだんから話し合ったり、勉強をみてあげたり、子どもの学業の状況を知るようにしている。

算数と国語の学力階層別にも、2教科合計の学力階層と同じ程度の強さで同じ傾向が読み取れる。しかしながら、「家には本(マンガや雑誌以外)がたくさんある」の項目では、算数と国語で異なる傾向が表れた。この項目では、国語は「上位」74.3%対「下位」62.0%と1割強の差があるのに対して、算数は「上位」66.3%対「下位」64.9%と差がほとんどない。家庭の本の多寡は、国語の能力に影響を与えているようだ。

表3 - 1 - 10 家庭の学習環境（学力階層別）

（％）

	算 数				国 語				2 教科合計			
	上位 (187)	中の上位 (621)	中の下位 (311)	下位 (231)	上位 (218)	中の上位 (497)	中の下位 (416)	下位 (216)	上位 (227)	中の上位 (515)	中の下位 (371)	下位 (227)
家には本（マンガや雑誌以外）がたくさんある	66.3	<u>69.6</u>	<u>57.6</u>	64.9	<u>74.3</u>	66.2	<u>61.1</u>	62.0	<u>73.1</u>	65.2	<u>62.0</u>	63.4
自分一人の勉強部屋を持っている	46.0	40.4	41.2	37.7	<u>49.5</u>	39.0	42.5	<u>33.3</u>	<u>45.8</u>	41.6	41.8	<u>33.5</u>
ほとんど毎日、家の人は私に「勉強しなさい」と言う	38.5	39.0	38.9	47.6	<u>33.0</u>	36.6	44.0	<u>49.1</u>	37.0	<u>35.9</u>	43.9	<u>47.6</u>
この1か月の間に、お父さんやお母さんに勉強をみてもらったことがある	<u>66.8</u>	65.9	62.1	<u>48.5</u>	<u>69.3</u>	66.8	58.9	<u>49.5</u>	<u>70.5</u>	65.8	59.8	<u>48.5</u>
お父さんやお母さんとよく話をする	<u>89.8</u>	86.6	83.6	<u>74.0</u>	<u>90.8</u>	86.9	84.9	<u>68.5</u>	<u>91.6</u>	87.0	83.0	<u>72.2</u>
お母さんは私の成績をよく知っている	79.7	<u>82.0</u>	77.2	<u>66.7</u>	<u>86.2</u>	81.3	75.5	<u>65.7</u>	<u>85.0</u>	81.4	77.4	<u>63.9</u>
お父さんは私の成績をよく知っている	57.8	<u>58.5</u>	55.3	<u>45.0</u>	<u>58.3</u>	57.3	56.3	<u>45.4</u>	<u>60.4</u>	58.1	54.2	<u>45.8</u>
家の人に博物館や美術館に連れていってもらったことがある	<u>63.6</u>	58.6	52.4	<u>45.0</u>	<u>69.7</u>	56.3	52.6	<u>43.5</u>	<u>67.8</u>	58.4	49.9	<u>45.4</u>

注1) 複数回答。

注2) 下線は10%以上差があるもの（最大値と最小値）。

注3) ( ) 内はサンプル数。

## 4 . 学校外の学習機会の利用と学力

### ①学習塾の利用と学力

通塾状況別にみると子どもの学力階層分布に顕著な差があった。学力上位層が多いのは、①「非通塾者」よりも「通塾者」、②「2日以下」よりも「3日以上」の通塾、③「補習塾」よりも「進学塾」への通塾、④「3時間未満」よりも「3時間以上」の学習をしているといった特徴を持つ子どもたちである。

Q

あなたは今、学習塾に行っていますか（そろばん、習字などの塾は除きます。「公文」のような自習教室は含めます）。

[ 学習塾に行っている人にお聞きします ]

週に何日行っていますか。

あなたの行っているのは、どんな学習塾ですか。

学習塾では1回に、平均何時間くらい勉強しますか。

あなたが行っている学習塾は、1クラス何人ですか。

明らかに、通塾が子どもの学力に影響を与えている。

表3-1-11は、通塾の状況別に子どもの学力階層の分布をみたものである。偏差値50以上（「上位」と「中の上位」の合計）に着目して考察を進めると、算数でも国語でも2教科合計でも、「通塾者」は「非通塾者」と比べて、偏差値50以上の割合が高くなっている。

また、通塾者の中で、通塾日数が「3日以上」の子どもは「2日以下」の子どもと比べてみたときも、やはり算数、国語、2教科合計のすべてで偏差値50以上の割合が高くなっている。

さらに、通塾者の中で、「進学塾」に通っている子どもは「補習塾」に通っている子どもと比べて、ここでも算数、国語、2教科合計ともに2割以上も高い値になっている。と

りわけ、算数の学力階層別では、「進学塾」に通っている子どもは「補習塾」に通っている子どもよりも3割近く「上位」の割合が高くなっている。「進学塾」に通うか「補習塾」に通うかと算数の学力階層の間に非常に強い相関がある。

最後に、1回の通塾で学習する時間についてみると、「3時間以上」の子どもは「3時間未満」の子どもと比べて、偏差値50以上の割合がおよそ2割高い値になっている。

以上、通塾状況によって学力階層の分布に顕著な差があり、学力上位層が多いのは、①「非通塾者」よりも「通塾者」、②「2日以下」よりも「3日以上」の通塾、③「補習塾」よりも「進学塾」への通塾、④「3時間未満」よりも「3時間以上」の学習をしているといった特徴を持つ子どもたちであった。

表3-1-11 算数、国語、2教科合計の学力階層（通塾状況別）

（％）

学習塾の利用	算 数		国 語		2教科合計	
	通塾 (454)	非通塾 (688)	通塾 (448)	非通塾 (693)	通塾 (448)	非通塾 (687)
上位	20.7	12.5	23.0	15.0	25.2	15.4
中の上位	46.9	46.2	40.0	36.7	40.8	38.4
上位 + 中の上位	67.6	58.7	63.0	51.7	66.0	53.8
中の下位	17.6	25.7	26.3	31.2	21.0	30.1
下位	14.8	15.6	10.7	17.2	12.9	16.0

以下の項目は、塾・予備校に「行っている」と答えた児童のみ回答。

週あたり通塾日数	算 数		国 語		2教科合計	
	1～2日 (293)	3日以上 (156)	1～2日 (291)	3日以上 (152)	1～2日 (291)	3日以上 (152)
上位	12.6	36.5	19.6	29.6	17.9	40.1
中の上位	50.2	41.7	38.1	44.7	43.6	36.2
上位 + 中の上位	62.8	78.2	57.7	74.3	61.5	76.3
中の下位	19.5	13.5	30.6	17.1	23.4	15.8
下位	17.7	8.3	11.7	8.6	15.1	7.9
学習塾タイプ	補習塾 (250)	進学塾 (137)	補習塾 (246)	進学塾 (135)	補習塾 (246)	進学塾 (135)
上位	12.8	40.9	19.9	30.4	17.9	43.0
中の上位	47.2	43.8	37.8	47.4	43.1	39.3
上位 + 中の上位	60.0	84.7	57.7	77.8	61.0	82.3
中の下位	22.4	7.3	30.1	15.6	24.4	9.6
下位	17.6	8.0	12.2	6.7	14.6	8.1
学習塾での学習時間	3時間未満 (349)	3時間以上 (97)	3時間未満 (343)	3時間以上 (97)	3時間未満 (343)	3時間以上 (97)
上位	14.6	43.3	19.5	36.1	20.4	43.3
中の上位	48.7	42.3	37.6	49.5	40.5	43.3
上位 + 中の上位	63.3	85.6	57.1	85.6	60.9	86.6
中の下位	20.3	7.2	29.4	14.4	23.9	10.3
下位	16.3	7.2	13.4	0.0	15.2	3.1

注1)「学習塾の利用」で「通塾」は「行っている」を、「非通塾」は「行っていない」を選択した児童。

注2)「週あたりの通塾日数」で「1～2日」は「1日」「2日」を、「3日以上」は「3日」「4日」「5日」「6日」「7日」を選択した児童。

注3)「学習塾のタイプ」で「補習塾」は「学校の勉強がわかるようになるための学習塾」を、「進学塾」は「私立中学校や国立大学の附属中学校を受験するための進学塾」を選択した児童。

注4)「学習塾での学習時間」で「3時間未満」は「30分くらい」「1時間くらい」「2時間くらい」を、「3時間以上」は「3時間くらい」「4時間以上」を選択した児童。

注5)数値部分の「上」は「上位」と「中の上位」の合計の差が10%以上のもの。

注6)（ ）内はサンプル数。

## ② 習い事・おけいこ事と学力

学力階層の違いによって、習い事やおけいこ事の利用率に差がある。算数の学力階層別にみると、「音楽」「スポーツ」「英語」などで学力上位層ほど利用率が高い。同様に、国語の学力階層の「上位」と「下位」の差をみると、「スポーツ」の差は小さくなる一方で、「音楽」「英語」に加えて「習字」でも大きな差が生じている。これらは、学力階層が「上位」であるほど利用率が高い。



あなたは、おけいこや学校外のクラブに行っていますか。

学力階層の違いによって、習い事やおけいこ事の利用率に差があった(表3-1-12)。「上位」と「下位」の違いに注目して考察を進めると、まず、2教科合計では、「音楽」(「上位」43.6%対「下位」14.1%)、「習字」(24.7%対12.3%)、「英語」(24.2%対8.4%)で差があり、いずれについても上位層ほど利用率が高い。

算数では、「音楽」(34.8%対18.2%)、「スポーツ」(47.1%対35.5%)、「英語」(20.3%対11.7%)などで利用率に差があり、ここでもいずれについても学力が高いほど利用率が高い。

国語では、「音楽」(48.6%対11.6%)、「習字」(31.2%対12.5%)、「英語」(25.2%対9.7%)で差があり、ここでもふたたび学力上位層ほど利用率が高い。国語については、学力上位層と下位層で差が非常に大きくなっているのが特徴である。また、「上位」と「下位」の差について、教科による特徴をみると、算数で「スポーツ」の差が大きく、国語で「習字」の差が大きい。

最後に、「何もしていない」に関しては、2教科合計、算数、国語ともに、学力階層が「下位」の子どもが「上位」の子どもに比べて2割ほど多くなっている。

表3-1-12 習い事・おけいこ事(学力階層別)

(%)

	算 数				国 語				2教科合計			
	上位 (187)	中の上位 (621)	中の下位 (311)	下位 (231)	上位 (218)	中の上位 (497)	中の下位 (416)	下位 (216)	上位 (227)	中の上位 (515)	中の下位 (371)	下位 (227)
音楽	<u>34.8</u>	30.6	<u>18.0</u>	18.2	<u>48.6</u>	25.8	21.9	<u>11.6</u>	<u>43.6</u>	28.2	19.9	<u>14.1</u>
習字	21.4	23.3	19.9	14.3	<u>31.2</u>	22.1	17.5	<u>12.5</u>	<u>24.7</u>	24.1	18.9	<u>12.3</u>
そろばん	13.9	12.2	9.0	8.2	11.5	12.3	9.4	10.2	12.8	11.1	10.8	9.3
スポーツ	<u>47.1</u>	46.2	43.4	<u>35.5</u>	40.8	47.1	44.5	38.9	42.3	<u>47.0</u>	44.7	<u>36.6</u>
英語	20.3	20.1	12.9	11.7	<u>25.2</u>	19.5	13.2	<u>9.7</u>	<u>24.2</u>	21.0	12.4	<u>8.4</u>
絵	2.7	2.7	1.9	3.0	4.1	1.4	3.8	2.3	2.6	2.5	2.4	3.1
バレエ、ダンス	3.7	3.5	3.2	2.6	4.6	4.8	1.7	1.9	3.1	4.7	3.0	1.3
その他	<u>34.8</u>	26.2	21.9	<u>19.0</u>	<u>33.0</u>	28.0	20.7	<u>18.5</u>	<u>37.0</u>	26.0	19.9	<u>19.4</u>
何もしていない	<u>9.1</u>	15.3	19.6	<u>29.9</u>	<u>11.9</u>	13.3	21.2	<u>29.2</u>	<u>9.7</u>	15.0	19.9	<u>30.4</u>

注1) 複数回答。

注2) 下線は10%以上差があるもの(最大値と最小値)。

注3) ( )内はサンプル数。

### ③メディアの利用と学力

パソコンやインターネットの利用に関して学力階層による差があり、上位層ほど家や学校でパソコンに触れたり、インターネットを使って何かを調べたりすることが多い。その他のメディアに関しては、学力階層による差は小さい。



パソコンやテレビなどのメディア（機械）についてお聞きします。

表3-1-13をみると、パソコンやインターネットの利用に関して学力階層による差があった。

2教科合計の学力階層別には、「家でパソコンを使う(「上位」71.8%対「下位」41.0%)」「家でインターネットを使って何か調べる(47.6%対20.7%)」と家でパソコンを使う割合やインターネットを使う割合が「上位」と「下位」でおよそ3割も違っている。また、「学校でパソコンを使う(89.4%対74.9%)」割合や「学校でインターネットを使って何か調

べる(55.1%対28.7%)」割合も「上位」のほうが「下位」よりも高くなっている。

同様な傾向を算数と国語の学力階層にもみることができる。

パソコン以外のメディアについては、「CD教材やビデオ教材を使って勉強する」「テレビやラジオの講座で勉強する」「家でパソコン用の学習ソフトで勉強する」「家でゲーム機用の学習ソフトで勉強する」ともに、それぞれの学力階層による差は小さかった。

表3-1-13 メディアの利用（学力階層別）

	算 数				国 語				2教科合計			
	上位 (187)	中の上位 (621)	中の下位 (311)	下位 (231)	上位 (218)	中の上位 (497)	中の下位 (416)	下位 (216)	上位 (227)	中の上位 (515)	中の下位 (371)	下位 (227)
家でパソコンを使う	<u>68.5</u>	60.1	52.4	<u>40.7</u>	<u>70.2</u>	60.0	50.2	<u>41.7</u>	<u>71.8</u>	60.4	49.3	<u>41.0</u>
学校でパソコンを使う	<u>88.2</u>	86.1	81.7	<u>75.3</u>	<u>92.7</u>	85.5	80.6	<u>75.4</u>	<u>89.4</u>	86.6	81.2	<u>74.9</u>
CD教材やビデオ教材を使って勉強する	36.9	39.5	37.0	38.1	41.3	38.0	37.7	35.7	33.4	42.1	36.1	37.0
テレビやラジオの講座で勉強する	20.3	20.3	15.7	22.1	23.0	18.5	19.0	18.1	21.2	19.2	17.6	21.1
家でパソコン用の学習ソフトで勉強する	19.8	18.0	16.4	17.3	20.7	17.3	17.1	15.3	19.8	17.8	15.6	17.7
家でゲーム機用の学習ソフトで勉強する	16.0	18.5	18.9	24.7	16.9	18.7	19.7	21.3	16.3	19.0	18.6	23.8
家でインターネットを使って何か調べる	<u>47.6</u>	35.1	26.7	<u>20.0</u>	<u>45.9</u>	37.0	25.2	<u>19.9</u>	<u>47.6</u>	37.3	22.9	<u>20.7</u>
学校でインターネットを使って何か調べる	<u>51.4</u>	46.7	40.5	<u>28.6</u>	<u>59.2</u>	45.5	38.7	<u>28.3</u>	<u>55.1</u>	47.4	38.6	<u>28.7</u>

注1) 数値は「よくある」と「時々ある」の合計。注2) 下線は10%以上差があるもの(最大値と最小値)。注3) ( )内はサンプル数。

## 第2節 小学生の学習観・成績観と学力

### 1. 成績観と学力

#### ①成績の自己評価と学力

学力階層によって成績の自己評価が大きく異なっている。しかし、学力階層が「下位」であっても今の成績がクラスで「上位」や「中位」であると自己評価する子どもが多く、その割合の合計は45.0%にも達する。

Q

あなたの今の成績は、クラスの中でどのくらいですか。  
 次の教科（算数、国語）の今の成績は、クラスの中でどのくらいですか。  
 あなたはどのくらいの成績がとれたらいいと思いますか。  
 今の成績は別として、あなたがうんとがんばれば、どのくらいの成績がとれると思いますか。

表3-2-1を用いて、算数、国語、2教科合計の学力階層別に、子どもたちが自分の成績についてどのように思っているかを考察する。

まず、2教科合計の学力階層についてであるが、「今の成績はクラスの中で『上位』（7段階中「1（上のほう）」「2」「3」を選択）である」と自己評価した割合は、「上位」59.0%に対して「下位」12.4%と46.6ポイントの差があった。反対に、「今の成績がクラスの中で『下位』（「5」「6」「7（下のほう）」を選択）である」と自己評価した割合は、「上位」11.1%に対して「下位」52.3%と41.2ポイントの差になっている。学力階層によって成績の自己評価が大きく異なっていて、両者は関連しているといえよう。

しかし、ここで注目したいのは、2教科合計の学力階層が「下位」であっても、「今の成績がクラスで『上位』である」と答えた子どもが12.4%、「『中位』（「4（真ん中）」を

選択）である」と答えた子どもが32.6%、合わせて45.0%もいるということである。こうしたズレが生じた理由として、算数と国語以外の教科が成績の自己評価に影響を与えているという可能性や、小学校ごと・クラスごとに学力の差違が大きく、2教科合計の学力階層が「下位」でも自分のクラスの中では「上位」や「中位」に位置する子どもがいた可能性が考えられる。

次に、算数についてしてみると、学力上位層ほど「算数の今の成績はクラスの中で『上位』」と答える割合が高くなるが、それだけでなく「国語の今の成績はクラスの中で『上位』」と答える割合も高くなる。同様に、国語でも学力上位層ほど「国語の今の成績はクラスの中で『上位』」と答える割合が高くなるが、それだけでなく「算数の今の成績はクラスの中で『上位』」と答える割合も非常に高くなる。

さらに、「あなたはどのくらいの成績がと

れたらいいと思いますか」「今の成績は別として、あなたがうんとがんばれば、どのくらいの成績がとれると思いますか」という質問に対しては、算数、国語、2教科合計の各学力階層の「上位」ほど、肯定的な回答をする傾向が現れているが、「下位」の子どもでも

およそ6割が「『上位』の成績をとりたい」と答え、同じくおよそ6割が「がんばれば『上位』の成績がとれる」と答えている。学力階層の低い子どもたちであっても高い成績をとりたいと考え、そしてがんばれば実際にとれると思っていることがわかる(表3-2-2)。

表3-2-1 成績の自己評価(学力階層別)

(%)

		算 数				国 語				2教科合計			
		上位 (187)	中の上位 (621)	中の下位 (311)	下位 (231)	上位 (218)	中の上位 (497)	中の下位 (416)	下位 (216)	上位 (227)	中の上位 (515)	中の下位 (371)	下位 (227)
あなたの今の成績はクラスの中でどのくらいですか	上位 「1」「2」「3」	<u>56.6</u>	39.1	16.7	<u>13.4</u>	<u>55.1</u>	40.7	19.5	<u>12.9</u>	<u>59.0</u>	40.6	15.7	<u>12.4</u>
	中位 「4」	29.9	35.9	37.3	34.2	28.9	36.4	38.5	31.9	29.1	36.9	38.3	32.6
	下位 「5」「6」「7」	<u>11.8</u>	22.4	44.1	<u>50.3</u>	<u>14.7</u>	21.1	39.2	<u>52.2</u>	<u>11.1</u>	20.0	43.7	<u>52.3</u>
算数の今の成績はクラスの中でどのくらいですか	上位 「1」「2」「3」	<u>67.9</u>	44.3	19.6	<u>13.5</u>	<u>57.7</u>	41.7	27.6	<u>21.3</u>	<u>63.5</u>	43.7	23.8	<u>14.9</u>
	中位 「4」	<u>17.1</u>	<u>30.9</u>	26.7	22.9	24.8	27.2	27.9	25.0	20.7	30.5	27.2	23.3
	下位 「5」「6」「7」	<u>15.0</u>	23.2	52.8	<u>61.9</u>	<u>17.0</u>	29.9	42.8	<u>52.3</u>	<u>15.0</u>	24.5	48.2	<u>59.5</u>
国語の今の成績はクラスの中でどのくらいですか	上位 「1」「2」「3」	<u>58.8</u>	41.8	26.1	<u>17.8</u>	<u>62.8</u>	44.9	23.8	<u>14.3</u>	<u>64.7</u>	42.3	24.4	<u>14.5</u>
	中位 「4」	<u>24.6</u>	31.7	32.8	<u>39.4</u>	<u>24.8</u>	31.8	<u>38.0</u>	30.6	<u>22.5</u>	32.2	<u>38.5</u>	33.0
	下位 「5」「6」「7」	<u>16.0</u>	25.2	39.9	<u>41.6</u>	<u>11.9</u>	22.3	36.8	<u>53.3</u>	<u>11.8</u>	24.4	35.6	<u>50.6</u>

注1) 下線は10%以上差があるもの(最大値と最小値)

注2) ( )内はサンプル数。

表3-2-2 とりたい成績・がんばればとれると思う成績(学力階層別)

(%)

		算 数				国 語				2教科合計			
		上位 (187)	中の上位 (621)	中の下位 (311)	下位 (231)	上位 (218)	中の上位 (497)	中の下位 (416)	下位 (216)	上位 (227)	中の上位 (515)	中の下位 (371)	下位 (227)
あなたは、どのくらいの成績がとれたらいいと思いますか	上位 「1」「2」「3」	<u>96.8</u>	92.0	84.9	<u>66.6</u>	<u>96.4</u>	93.4	84.8	<u>63.9</u>	<u>96.9</u>	93.4	86.0	<u>62.1</u>
	中位 「4」	<u>2.1</u>	5.6	10.6	<u>19.0</u>	<u>3.2</u>	4.6	11.5	<u>17.6</u>	<u>2.6</u>	4.7	10.5	<u>20.3</u>
	下位 「5」「6」「7」	<u>1.0</u>	2.2	3.8	<u>12.5</u>	<u>0.5</u>	1.8	2.9	<u>17.1</u>	<u>0.4</u>	1.8	3.0	<u>15.8</u>
今の成績は別として、あなたがうんとがんばればどのくらいの成績がとれると思いますか	上位 「1」「2」「3」	<u>94.7</u>	89.5	77.2	<u>61.1</u>	<u>95.9</u>	89.5	78.9	<u>59.7</u>	<u>96.4</u>	90.7	79.5	<u>56.0</u>
	中位 「4」	<u>4.8</u>	7.9	17.7	<u>25.5</u>	<u>3.7</u>	8.2	16.6	<u>24.1</u>	<u>3.1</u>	7.4	16.2	<u>27.8</u>
	下位 「5」「6」「7」	<u>0.5</u>	2.1	4.2	<u>11.2</u>	<u>0.5</u>	1.8	3.2	<u>14.7</u>	<u>0.4</u>	1.6	3.0	<u>14.4</u>

注1) 下線は10%以上差があるもの(最大値と最小値)

注2) ( )内はサンプル数。

## ②成績観・学力観と学力

学力上位層ほど学歴獲得を目指した学力向上を望んでいる。それに対して、下位層ほど、そこそこの学力で満足する。この背景には「そんなに勉強しなくても、なんとか進学できるだろう」という現状認識が影響している。



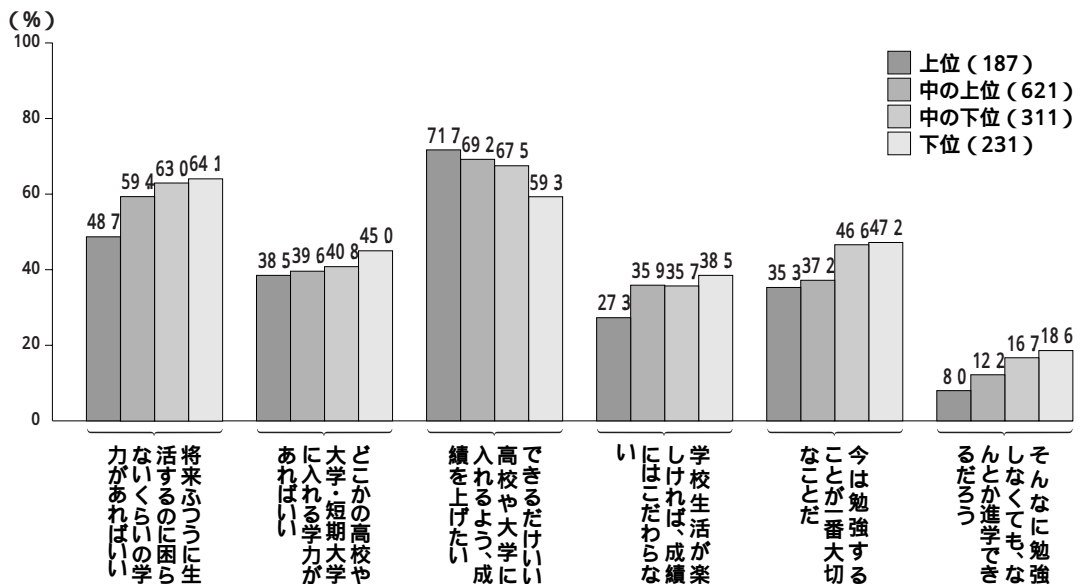
あなたは、次のように思うことがありますか。

図3-2-1①は、成績観・学力観を尋ねた結果を算数の学力階層別に示している。これを見ると、算数の学力が上位であるほど、「できるだけいい高校や大学に入れるよう、成績を上げたい」と答える割合が高まり「上位」では71.7%にも及んでいる。学力が高いほど学歴獲得を目指した成績達成を望んでいることがわかる。これに対して学力下位層ほど、「将来ふつうに生活するのに困らないくらいの学力があればいい」「どこかの高校や大学・短期大学に入れる学力があればいい」という回答が多く、そこそこの学力で満足

している。この背景には「そんなに勉強しなくても、なんとか進学できるだろう」という現状認識が影響している。その結果、学力の低い子どもは「学校生活を楽しめれば、成績にはこだわらない」としているが、しかしながら同時に、矛盾するようだが「今は勉強することが一番大切なことだ」とも考えている。実際の学校生活は勉強をしないと楽しいものにならないようになっているのであろうか。

図3-2-1②で国語についてしてみると、「将来ふつうに生活するのに困らないくらいの学力があればいい」「どこかの高校や大

図3-2-1 成績観・学力観（算数の学力階層別）



注1) 複数回答。

注2) ( )内はサンプル数。

学・短期大学に入れる学力があればいい」の2つの項目では「上位」と「下位」で差がほとんどない。これに対して、「できるだけいい高校や大学に入れるよう、成績を上げたい」は「上位」が72.5%、「下位」が56.5%と差が大きい。そして、「そんなに勉強しな

くても、なんとか進学できるだろう」は「上位」が9.6%に対して、「下位」が21.8%となっている。

最後に、図3-2-1③をみると、2教科合計でも、国語とほぼ同じような傾向になっている。

図3-2-1 成績観・学力観（国語の学力階層別）

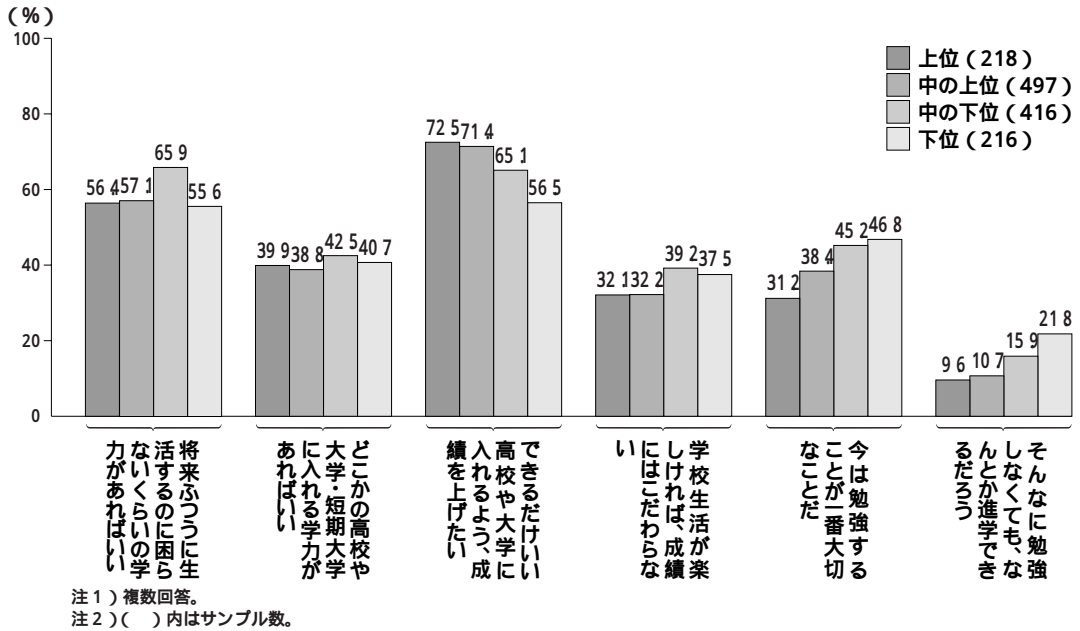
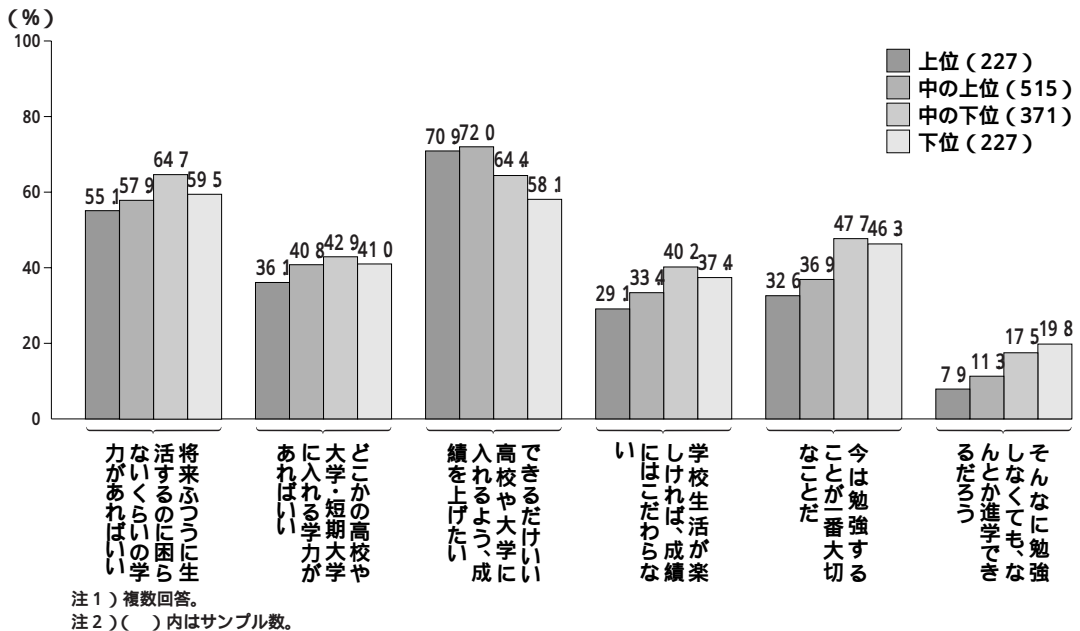


図3-2-1 成績観・学力観（2教科合計の学力階層別）



## 2 . 学習していて感じることと学力

算数の学力が上位であるほど算数だけでなく、国語、英語、社会に関する関心、意欲が高い。また、国語では、すべての教科にかかわる項目で学力上位層ほど関心、意欲も高くなっており、階層ごとの差も算数の場合よりも大きい。このことは、国語の学力が他の教科の関心、意欲を支える基礎的な学力となっている可能性を示唆している。

Q

あなたは勉強していて、次のように感じることがありますか。

最初に、図3 - 2 - 2 ①で算数の学力階層別に関心、意欲にかかわる項目をみよう。当然のことだが、算数の学力が高いほど「算数の考え方や解き方を『すばらしい』とか『ふしぎだな』と感じる」「算数の問題の解き方を考えたり工夫したりするのが好きだ」と答える割合が多くなる。しかしそれだけでなく、国語に関する質問項目の「国語の教科書を読んでいて、登場人物や書いてある内容に興味が出てくる」でも「上位」76.5%、「中の上位」72.5%、「中の下位」66.6%、「下位」59.3%と上位層ほど高い値になっており、「自分や相手の気持ち・考えをうまく出し合えたらいいなと思う」でも「上位」80.8%、「中の上位」76.4%、「中の下位」69.5%、「下位」60.2%とやはり上位層ほど高い値になっている。さらに、英語に関する質問でも「英語を

使って外国の人と話したり、手紙を書いたりしてみたい」に対して「上位」66.3%、「中の上位」63.7%、「中の下位」55.3%、「下位」53.3%と上位層ほど高い値になっている。そして、社会に関する質問項目でも算数の学力階層が「上位」であるほど高い値になっている。算数の学力階層が高いほど算数、国語、英語、社会に関する関心、意欲が高い。

続いて、図3 - 2 - 2 ②で、国語の学力と各教科の関心、意欲の関係をみると、今度はすべての教科にかかわる項目で国語の学力が高いほど関心、意欲も高くなっており、階層ごとの差違も算数の場合よりも大きい。こうした結果は、国語の学力が他の教科の関心、意欲を支える基礎的な学力となっている可能性を示唆している。

図3-2-2 学習していて感じること（算数の学力階層別）

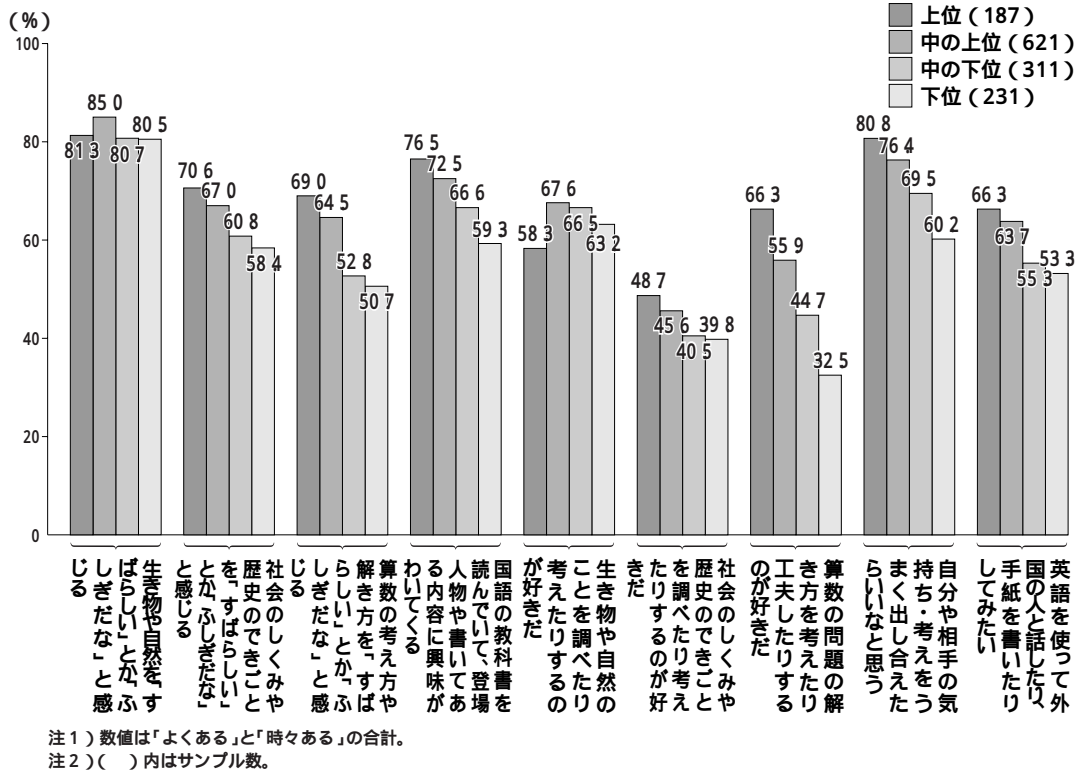


図3-2-2 学習していて感じること（国語の学力階層別）

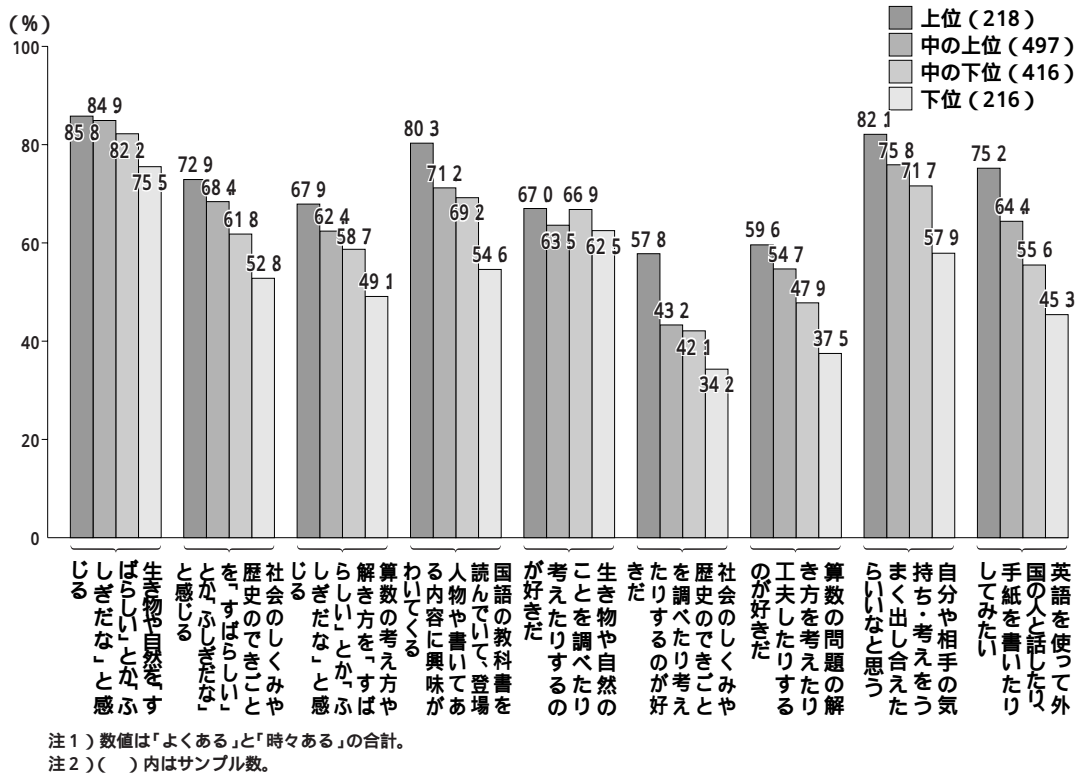
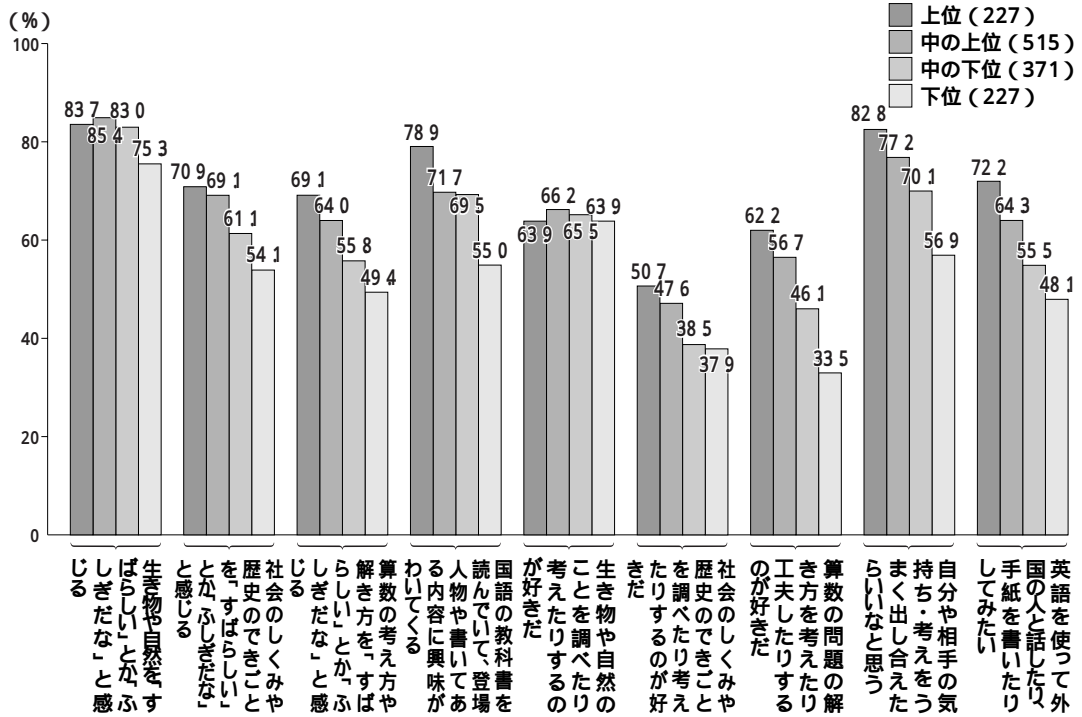


図3-2-2 学習していて感じること(2教科合計の学力階層別)



注1) 数値は「よくある」と「時々ある」の合計。

注2) ( )内はサンプル数。

### 3 . 学習上の悩みと学力

学力の低い子どもは高い子どもよりも学習の難易度と覚える量の多さに困難を感じている。さらに、学力の低い子どもは高い子どもと比べて学習に対して疎外的である。しかし、学力下位層は上位層よりも学力向上意欲が強い。



あなたは勉強について、次のように思うことがありますか。

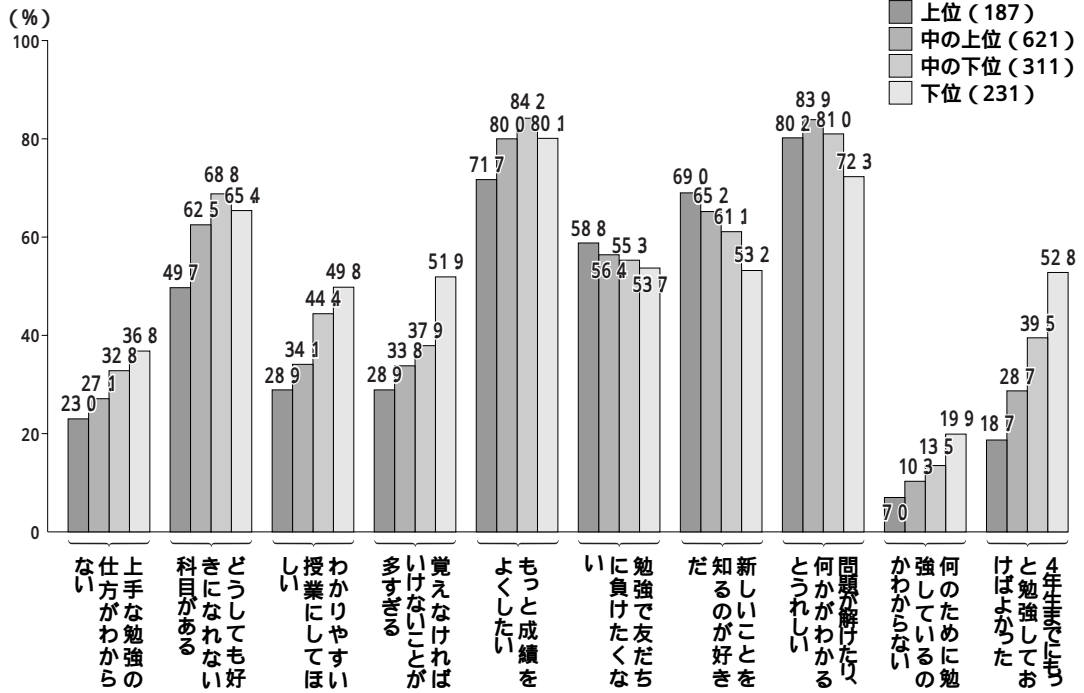
学力の高い子と低い子で勉強についての悩みはどう違うのだろうか。今度は、学力階層別に学習上の悩みについてみてみよう。

最初に、図3 - 2 - 3 ①で算数の学力階層別にみると、「わかりやすい授業にしてほしい(「上位」28.9%対「下位」49.8%)」「覚えなければいけないことが多すぎる(28.9%対51.9%)」の2項目で「上位」と「下位」の差がおおよそ2割開いている。学力の低い子どもは高い子どもよりも学習の難易度と覚える量の多さに困難を感じている。さらに、学力の低い子どもは高い子どもよりも「新しいことを知るのが好きだ(69.0%対53.2%)」と知ることを好きになる割合が低く、「問題が解けたり、何かがわかるとうれしい(80.2%対72.3%)」とうれしさも少ない。また、「何

のために勉強しているのかわからない(7.0%対19.9%)」と勉強の意義をつかんでいない割合も高く、「上手な勉強の仕方がわからない(23.0%対36.8%)」も「下位」のほうが高い。このように学力の低い子どもは高い子どもと比べて、学習に対して疎外的である。しかし、下位層は上位層よりも「4年生までにもっと勉強しておけばよかった(18.7%対52.8%)」と悔やむ気持ちは強く、「もっと成績をよくしたい(71.7%対80.1%)」という向上意欲も強いという傾向も持っている。決して疎外されたままではない。

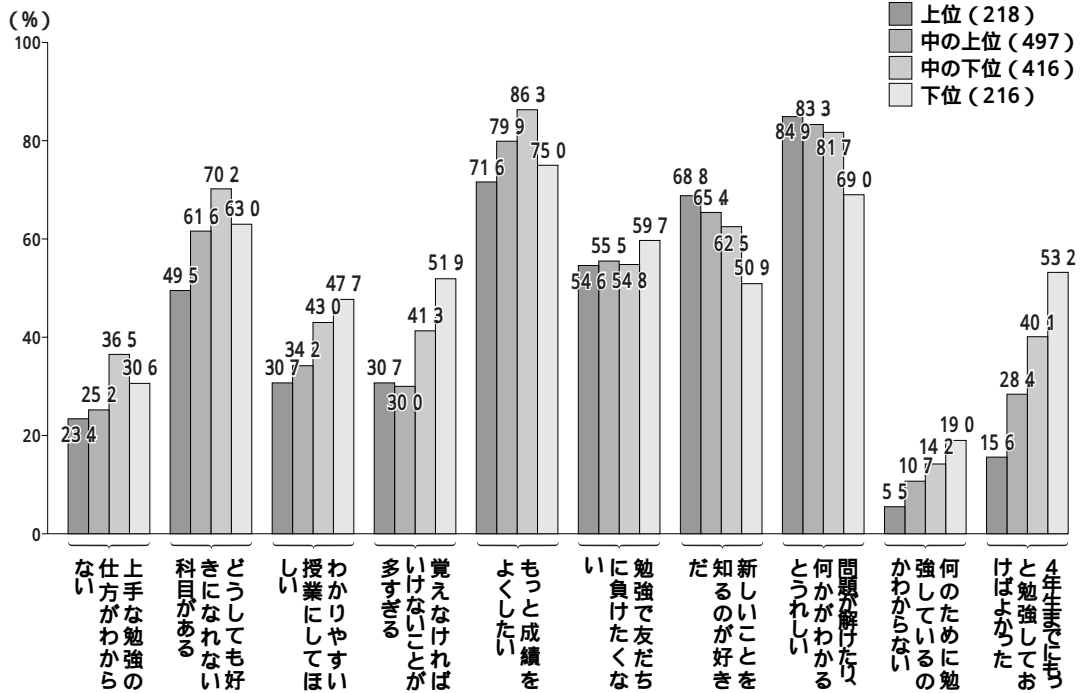
図3 - 2 - 3 ②と図3 - 2 - 3 ③で国語の学力階層と2教科合計の学力階層ごとの学習上の悩みについてみている。ここでも、算数と同じ傾向が読み取れた。

図3-2-3 学習上の悩み(算数の学力階層別)



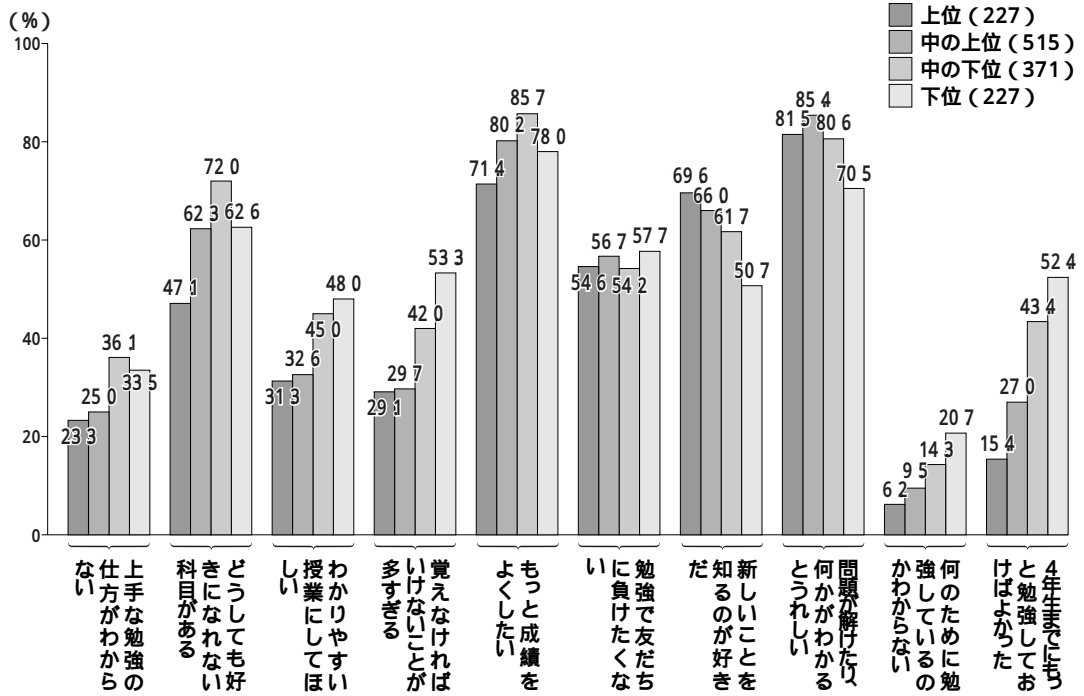
注1) 複数回答。  
注2) ( )内はサンプル数。

図3-2-3 学習上の悩み(国語の学力階層別)



注1) 複数回答。  
注2) ( )内はサンプル数。

図3-2-3 学習上の悩み（2教科合計の学力階層別）



注1) 複数回答。  
注2) ( )内はサンプル数。

## 4 . 進路・進学意識と学力

学力上位層は下位層に比べると、中学受験を希望する割合が高い。さらに、「四年制大学まで」や「大学院まで」の進学を希望する割合も高く、将来進みたい学校段階は、現在の学力と関連していることがわかる。

Q

あなたは、どこかの中学校（私立中学校や国立大学の附属中学校）を受験しようと思っていますか。

あなたは将来、どの学校まで進みたいですか。

学力が高い子どもは低い子どもと比べて、中学受験を希望する割合が高い。表3-2-3でこのことをみると、中学受験を決めている割合は、算数の学力階層では「上位」が32.1%と3割強、「中の上位」が17.2%と2割弱、そして「中の下位」が13.2%、「下位」

が12.6%とそれぞれ1割強である。こうした差は国語の学力階層ではやや小さくなり、国語の学力階層の「上位」は21.6%、「中の上位」は23.7%、「中の下位」は11.3%、「下位」は10.2%であった。算数の学力階層のほうが中学受験との相関が強い。

表3-2-3 中学受験の希望（学力階層別）

（%）

	算 数				国 語				2教科合計			
	上位 (187)	中の上位 (621)	中の下位 (311)	下位 (231)	上位 (218)	中の上位 (497)	中の下位 (416)	下位 (216)	上位 (227)	中の上位 (515)	中の下位 (371)	下位 (227)
受験する	<u>32.1</u>	17.2	13.2	<u>12.6</u>	21.6	<u>23.7</u>	11.3	<u>10.2</u>	<u>27.3</u>	19.0	13.5	<u>10.6</u>
まだ決めていない	<u>40.1</u>	50.4	50.5	<u>51.5</u>	<u>42.7</u>	46.1	<u>54.3</u>	52.8	<u>42.3</u>	48.3	<u>52.3</u>	52.0
受験しない	27.3	32.2	35.4	32.9	34.4	29.8	33.9	34.7	30.0	31.8	34.2	34.4

注1) 下線は10%以上差があるもの（最大値と最小値）

注2) ( )内はサンプル数。

続いて、表3-2-4で算数、国語、2教科合計の各学力階層別に、将来どの学校まで進みたいかをみると、まず、2教科合計の「上位」は「四年制大学まで」が18.1%、「大学院まで」が14.5%と合計して32.6%が大学以上を希望している。これに対して「下位」では「四年制大学まで」が6.6%、「大学院まで」が5.7%と合計しても12.3%にしかならない。反対に、「上位」では「中学校まで」が0.9%、

「高校まで」が15.0%で、合計して15.9%しかないのに対して、「下位」では「中学校まで」が8.4%、「高校まで」が36.6%で、合計して45.0%にもなっている。明らかに、学力階層によって将来希望する学校段階が異なる。2教科合計の学力階層とほぼ同様な傾向を、算数の学力階層別、国語の学力階層別でも読み取ることができる。

表3-2-4 希望する進学段階（学力階層別）

(%)

	算 数				国 語				2教科合計			
	上位 (187)	中の上位 (621)	中の下位 (311)	下位 (231)	上位 (218)	中の上位 (497)	中の下位 (416)	下位 (216)	上位 (227)	中の上位 (515)	中の下位 (371)	下位 (227)
中学校まで	0.0	2.4	4.2	7.4	0.9	2.0	4.3	7.4	0.9	1.6	4.3	8.4
高校まで	<u>17.1</u>	23.2	35.0	<u>35.1</u>	<u>17.0</u>	21.5	32.7	<u>39.8</u>	<u>15.0</u>	21.6	36.4	<u>36.6</u>
専門学校・各種学校まで	15.5	16.6	11.6	11.7	<u>20.2</u>	16.9	11.8	<u>6.9</u>	<u>20.7</u>	15.5	11.6	<u>9.7</u>
短期大学まで	7.0	9.0	8.4	4.3	11.0	8.2	7.9	2.8	9.3	9.5	7.5	2.6
四年制大学まで	<u>20.9</u>	14.7	9.0	<u>8.2</u>	<u>16.1</u>	15.9	12.3	<u>5.6</u>	<u>18.1</u>	16.7	9.4	<u>6.6</u>
大学院まで	15.5	11.0	7.1	6.5	12.8	12.5	7.2	6.0	14.5	11.8	7.0	5.7
その他	2.7	2.1	0.3	1.7	1.8	2.2	1.4	1.4	2.2	2.3	1.1	0.9
わからない	21.4	20.6	24.1	22.1	19.7	20.1	21.9	27.8	19.4	20.2	22.6	26.4

注1) 下線は10%以上差があるもの(最大値と最小値)。

注2) ( )内はサンプル数。